

平成29年度

# ステージラボ

～公共ホール等企画運営ワークショップ～

## 事業報告書

一般財団法人 地域創造

# 目 次

I	事業概要	
1	実施にあたって	3
2	あらまし	3
3	開催実績	5
4	都道府県別参加状況	9
II	平成29年度事業	
1	事業概要	13
2	参加者の属性	14
3	コーディネーター・講師一覧	16
4	スタッフ一覧	18
5	実施日程（参加者募集～研修実施の流れ）	19
III	ステージラボ 高知セッション	
1	研修スケジュール	23
2	各コースについて	
	(1)ホール入門コース	27
	(2)自主事業Ⅰ（音楽）コース	33
	(3)自主事業Ⅱ（舞台芸術）コース	41
3	共通プログラム	46
IV	ステージラボ 横浜セッション	
1	研修スケジュール	49
2	各コースについて	
	(1)ホール入門コース	53
	(2)自主事業（音楽）コース	59
3	共通プログラム	65
V	参加者リスト	
○	ステージラボ 高知セッション	69
○	ステージラボ 横浜セッション	77

# I 事業概要

## 1 実施にあたって

劇場・ホールの運営については、ハードウェア（施設）、ソフトウェア（活動）、ヒューマンウェア（人材、組織、職能）の3要素が一体不可分なものとして、相互にバランスよく結びついたものとして存在しなければなりません。

一般財団法人地域創造では、地域の公共ホール・劇場、美術館や地方公共団体で文化・芸術に携わる職員の方々を対象とする研修交流事業を実施し、ソフトウェアを支えるヒューマンウェアの確立という課題面から、地域における創造的な芸術環境づくりをサポートしています。

平成29年度は、高知セッション、横浜セッションを開催するとともに、東京・赤坂で「公立ホール・劇場 マネージャーコース」を「文化政策幹部セミナー」と同時開催しました（別冊報告書）。高知セッションと横浜セッションでは、全国各地から102名の方々に参加いただき、研修を通してソフトウェアに関する諸課題の検討を進めてきました。

ヒューマンウェアをめぐる課題は、地域やホール毎に様々な形で存在しています。このため、効果的な方法論を短時間に見いだすことはなかなか困難なことではありますが、地域創造ではステージラボという研修手法を通じて、今後とも全国各地の公共ホール、劇場、美術館、地方公共団体関係者の方々と、この課題の検討を進めていきたいと考えております。

## 2 あらまし

### （1）事業目的

- ① 公共ホール・劇場、美術館や地方公共団体などの芸術環境づくりに取り組む役職員を対象とした実践的研修とネットワークの形成の場の提供
- ② 研修の実践を踏まえた人材育成プログラムのあり方の探求

### （2）事業内容

#### ① 運営方針

ステージラボは、地域における文化・芸術の創造拠点（アーツセンター）となる公共ホール、劇場、美術館の企画・制作や事業運営に関わる役職員を対象に、職務内容、階層に応じた実践的研修プログラムにより実施しています。

研修内容の主目的は、地域社会と文化・芸術をどうつなぐかというアートマネジメント論に立った施設運営の探求と、施設間の連携（ネットワークづくり）による効果的な芸術支援（育成）の環境を整えることにあります。

## ② 研修内容

公共ホール、劇場、美術館及び地方公共団体の文化・芸術に携わる職員を対象として、4日間程度の密度の濃い集中研修とし、双方向のコミュニケーションが可能な少人数のゼミ形式で実施。

原則として、参加者の業務内容、経験度等に合わせたコース設定(1セッション2~3コース程度)とし、ワークショップ、グループディスカッション、レクチャーコンサート、シンポジウムなどを取り入れたプログラムで構成。

## ③ 開催回数及び実施時期

ステージラボ：原則年度2回 年度の前半及び後半に各1回ずつ

## ④ 会場

全国各地の公共ホールや劇場などにおいて実施

## (3) 研修実施方法

ステージラボの実施方法は以下のとおりです。

### ① 集中ゼミの実施

3~4日間の日程に密度の濃いカリキュラムで実施。

### ② 研修参加者の経験度にあわせたコース設定・プログラム構成

研修効果を高めるため、担当業務の内容、経験年数ならびに職務階層別のカリキュラム体系を編成。また、参加者の問題意識や参加ニーズは、参加応募時にアンケートを提出いただき、参加者の抱える課題に応じたゼミ内容に努めている。

### ③ 参加者の能動的参加を促し、双方向のコミュニケーションを導き出す

一方的な講義とならないよう、少人数形式を採用。事前課題、グループディスカッション等を用い、参加者自らの積極的な参加意識を高める。

### ④ 実体験に触れるプログラムの提供

ワークショップ、レクチャーコンサート等を通して、実演芸術のあり方を肌で感じる機会を設けている。

### ⑤ 具体的な事業、運営への活用

業務遂行のための単なるノウハウ伝授の場とならぬよう、研修で得られた内容を日常業務のさまざまな場面でのヒントにいただき、情報交流事業による情報交換、相談の場の提供などのアフターフォロー体制を敷いている。

### 3 開催実績

#### 【ステージラボ・アートミュージアムラボ等開催実績】

年度	セッション名	開催日時	会場	参加者数	設定コース	
平成6年度	埼玉セッション	平成 6年 11月 30日 ～ 12月 2日	彩の国さいたま 芸術劇場 (埼玉県与野市：現さいたま市)	65名	基礎コース 音楽コース 演劇ダンスコース	23名 23名 19名
	宮崎セッション	平成 7年 2月 28日 ～ 3月 3日	宮崎県立芸術劇場 (宮崎県宮崎市)	56名	基礎コース 音楽コース 演劇コース	18名 19名 19名
平成7年度	水戸セッション	平成 7年 6月 6日 ～ 6月 10日	水戸芸術館 (茨城県水戸市)	52名	ステージ業務入門コース ステージ創造環境コース ステージ鑑賞共感コース	21名 12名 19名
	広島セッション	平成 8年 2月 27日 ～ 3月 1日	アステールプラザ (広島県広島市)	76名	基礎コース 音楽コース 演劇コース	23名 33名 20名
平成8年度	盛岡セッション	平成 8年 7月 2日 ～ 7月 5日	盛岡劇場 (岩手県盛岡市)	59名	ホール事業入門コース 音楽事業コース 演劇事業コース	21名 18名 20名
	福岡セッション	平成 8年 11月 19日 ～ 11月 22日	アクロス福岡 (福岡県福岡市)	60名	基礎準備コース ホール運営Ⅰコース ホール運営Ⅱコース	17名 22名 21名
平成9年度	松山セッション	平成 9年 8月 5日 ～ 8月 8日	松山市総合 コミュニティセンター (愛媛県松山市)	69名	ホールマネージャーコース ホール運営入門コース 自主事業(音楽)コース 自主事業(演劇・ダンス)コース	19名 20名 15名 15名
	世田谷セッション	平成10年 2月 17日 ～ 2月 20日	世田谷 パブリックシアター (東京都世田谷区)	78名	ホール計画コース ホール入門コース 演劇コース 音楽コース	17名 26名 16名 19名
平成10年度	札幌セッション	平成10年 6月 23日 ～ 6月 26日	札幌芸術の森 (北海道札幌市)	69名	ホールマネージャーコース ホール入門コース 演劇コース 音楽コース	14名 20名 15名 20名
	神戸セッション	平成11年 2月 2日 ～ 2月 5日	神戸アートビレッジ センター (兵庫県神戸市)	69名	ホール計画コース ホール入門コース 演劇・ダンスコース 音楽コース	15名 24名 11名 19名
平成11年度	静岡セッション	平成11年 6月 29日 ～ 7月 2日	静岡県コンベンション アーツセンター (静岡県静岡市)	66名	ホール入門コース ホール運営Ⅰコース ホール運営Ⅱコース	25名 20名 21名
	高知セッション	平成12年 2月 15日 ～ 2月 18日	高知県立美術館 (高知県高知市)	70名	ホールマネージャーコース ホール入門コース 自主事業コース 美術コース	14名 20名 21名 15名
平成12年度	金沢セッション	平成12年 7月 4日 ～ 7月 7日	金沢市民芸術村 (石川県金沢市)	81名	ホール入門コース 演劇コース 音楽コース 美術コース	26名 19名 20名 16名
	熊本セッション	平成13年 2月 20日 ～ 2月 23日	熊本県立劇場 (熊本県熊本市)	66名	ホール入門コース 運営基礎コース 演劇コース 音楽コース	19名 20名 12名 15名

年度	セッション名	開催日時	会場	参加者数	設定コース	
平成13年度	仙台セッション	平成13年 7月 3日 ～ 7月 6日	仙台市青年文化センター (宮城県仙台市)	65名	ホール入門コース 演劇コース 音楽コース 美術コース	23名 13名 18名 11名
	佐世保セッション	平成14年 2月 5日 ～ 2月 8日	アルカスSASEBO (長崎県佐世保市)	60名	ホールマネージャーコース ホール入門コース 演劇コース 音楽コース	17名 22名 9名 12名
平成14年度	岐阜セッション	平成14年 6月 25日 ～ 6月 28日	岐阜市文化センター (岐阜県岐阜市)	87名	ホール入門コース 自主事業入門コース 自主事業企画・制作コース ホール管理・運営コース	24名 21名 21名 21名
	大分セッション	平成15年 2月 18日 ～ 2月 21日	大分県立総合文化センター (大分県大分市)	71名	ホール入門コース 自主事業入門コース 自主事業企画・制作コース アートミュージアムラボ	23名 20名 16名 12名
平成15年度	横浜セッション	平成15年 7月 1日 ～ 7月 4日	横浜赤レンガ倉庫1号館 (神奈川県横浜市)	88名	ホール入門コース 自主事業入門コース 自主事業企画・制作コース アートミュージアムラボ	25名 23名 21名 19名
	沖縄・佐敷セッション	平成16年 2月 3日 ～ 2月 6日	佐敷町文化センター・シュガーホール (沖縄県佐敷町)	50名	ホール入門コース 自主事業コース 文化政策・企画コース	21名 17名 12名
平成16年度	新潟セッション	平成16年 6月 22日 ～ 6月 25日	りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館 (新潟県新潟市)	81名	ホール入門コース 自主事業Ⅰ(音楽)コース 自主事業Ⅱ(演劇)コース 文化政策企画・文化施設運営コース	24名 20名 18名 19名
	京都セッション	平成17年 2月 1日 ～ 2月 4日	京都芸術センター (京都府京都市)	69名	ホール入門コース 自主事業Ⅰ(演劇)コース 自主事業Ⅱ(ダンス)コース アートミュージアムラボ	23名 13名 17名 16名
平成17年度	松本セッション	平成17年 7月 5日 ～ 7月 8日	まつもと市民芸術館 (長野県松本市)	77名	ホール入門コース 自主事業Ⅰ(音楽)コース 自主事業Ⅱ(演劇)コース 文化政策企画・文化施設運営コース	25名 14名 18名 20名
	三重セッション	平成18年 2月 21日 ～ 2月 24日	三重県総合文化センター (三重県津市)	51名	ホール入門コース 自主事業Ⅰ(音楽)コース 自主事業Ⅱ(演劇)コース アートミュージアムラボ	15名 19名 12名 5名
平成18年度	長久手セッション	平成18年 7月 11日 ～ 7月 14日	長久手町文化の家 (愛知県長久手町)	65名	ホール入門コース 自主事業Ⅰ(音楽)コース 自主事業Ⅱ(演劇)コース 文化政策企画・文化施設運営コース	20名 16名 10名 19名
	高松セッション	平成19年 2月 20日 ～ 2月 23日	サンポートホール高松 (香川県高松市)	64名	ホール入門コース 自主事業Ⅰ(音楽)コース 自主事業Ⅱ(演劇)コース アートミュージアムラボ	19名 16名 15名 14名
平成19年度	鳥取セッション	平成19年 7月 10日 ～ 7月 13日	鳥取県立県民文化会館 (鳥取県鳥取市)	62名	ホール入門コース 自主事業コース 文化政策企画・文化施設運営コース	21名 22名 19名
	東京セッション	平成20年 2月 5日 ～ 2月 8日	東京芸術劇場 (東京都豊島区)	65名	ホール入門コース 自主事業Ⅰ(音楽)コース 自主事業Ⅱ(ダンス)コース アートミュージアムラボ	24名 20名 10名 11名

年度	セッション名	開催日時	会場	参加者数	設定コース
平成20年度	青森セッション	平成20年 7月15日 ～ 7月18日	青森市文化会館、 青森県立美術館 (青森県青森市)	57名	ホール入門コース 20名 自主事業コース 16名 文化政策企画・文化施設運営コース 11名 アートミュージアムラボ 10名
	徳島セッション	平成21年 2月 3日 ～ 2月 6日	徳島県郷土文化会館 (徳島県徳島市)	49名	ホール入門コース 21名 自主事業コース 16名 文化政策企画・文化施設運営コース 12名
平成21年度	富山・高岡セッション	平成21年 7月 7日 ～ 7月10日	富山県高岡文化ホール (富山県富山市)	57名	ホール入門コース 23名 自主事業コース 21名 アートミュージアムラボ 13名
	(東京・赤坂開催)	平成21年 9月 3日～5日	地域創造会議室	16名	公立ホール・劇場マネージャーコース 16名
	鹿児島セッション	平成22年 2月 2日 ～ 2月 5日	鹿児島県文化センター (鹿児島県鹿児島市)	55名	ホール入門コース 23名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 18名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 14名
平成22年度	群馬セッション	平成22年 7月15日 ～ 7月18日	群馬県民会館 (群馬県前橋市)	56名	ホール入門コース 21名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 20名 自主事業Ⅱ(ダンス)コース 15名
	(東京・赤坂開催)	平成22年10月13日～15日	地域創造会議室	16名	公立ホール・劇場マネージャーコース 16名
	奈良セッション	平成23年 2月 1日 ～ 2月 4日	なら100年会館 (奈良県奈良市)	63名	ホール入門コース 24名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 19名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 20名
	アートミュージアムラボ 高知セッション	平成23年 3月 9日～11日	高知県立美術館(高知県高知市)	17名	アートミュージアムラボ 17名
平成23年度	(東京・赤坂開催)	平成23年10月12日～14日	地域創造会議室	18名	公立ホール・劇場マネージャーコース 18名
	アートミュージアムラボ 埼玉セッション	平成23年12月7日～9日	埼玉県立近代美術館(埼玉県さいたま市)	16名	アートミュージアムラボ 16名
	栃木セッション	平成24年 2月21日 ～ 2月24日	栃木県総合文化センター (栃木県宇都宮市)	53名	ホール入門コース 21名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 20名 自主事業Ⅱ(ダンス)コース 12名
平成24年度	埼玉セッション	平成24年 7月10日 ～ 7月13日	彩の国さいたま芸術劇場 (埼玉県さいたま市)	54名	ホール入門コース 25名 自主事業Ⅰ(演劇)コース 14名 自主事業Ⅱ(ダンス)コース 15名
	(東京・赤坂開催)	平成24年10月31日～11月2日	地域創造会議室	15名	公立ホール・劇場マネージャーコース 15名
	兵庫セッション	平成25年 1月29日 ～ 2月 1日	兵庫県立芸術文化センター (兵庫県西宮市)	62名	ホール入門コース 23名 自主事業Ⅰ(地域交流プログラム)コース 19名 自主事業Ⅱ(音楽企画政策)コース 20名
	アートミュージアムラボ 静岡セッション	平成25年 3月 6日～8日	静岡県立美術館(静岡県静岡市)	11名	アートミュージアムラボ 11名
平成25年度	静岡セッション	平成24年 6月25日 ～ 6月28日	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ (静岡県静岡市)	60名	ホール入門コース 22名 自主事業Ⅰ(伝統芸能)コース 18名 自主事業Ⅱ(子ども)コース 20名
	(東京・赤坂開催)	平成25年9月4日～6日	地域創造会議室	25名	公立ホール・劇場マネージャーコース 25名
	アートミュージアムラボ 宮城セッション	平成25年 12月 4日～6日	宮城県美術館(宮城県仙台市)	8名	アートミュージアムラボ 8名
	長崎セッション	平成25年 2月18日 ～ 2月21日	長崎ブリックホール (長崎県長崎市)	48名	ホール入門コース 18名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 13名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 17名
平成26年度	新潟セッション	平成26年 7月 1日 ～ 7月 4日	りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館 (新潟県新潟市)	58名	ホール入門コース 21名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 22名 自主事業Ⅱ(舞台芸術)コース 15名
	(東京・赤坂開催)	平成26年10月15日～17日	地域創造会議室	16名	公立ホール・劇場マネージャーコース 16名
	アートミュージアムラボ 愛知セッション	平成27年 1月28日～30日	愛知芸術文化センター(愛知県名古屋市)	12名	アートミュージアムラボ 12名
	広島セッション	平成27年 2月17日 ～ 2月20日	アステールプラザ (広島県広島市)	47名	ホール入門コース 20名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 14名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 13名

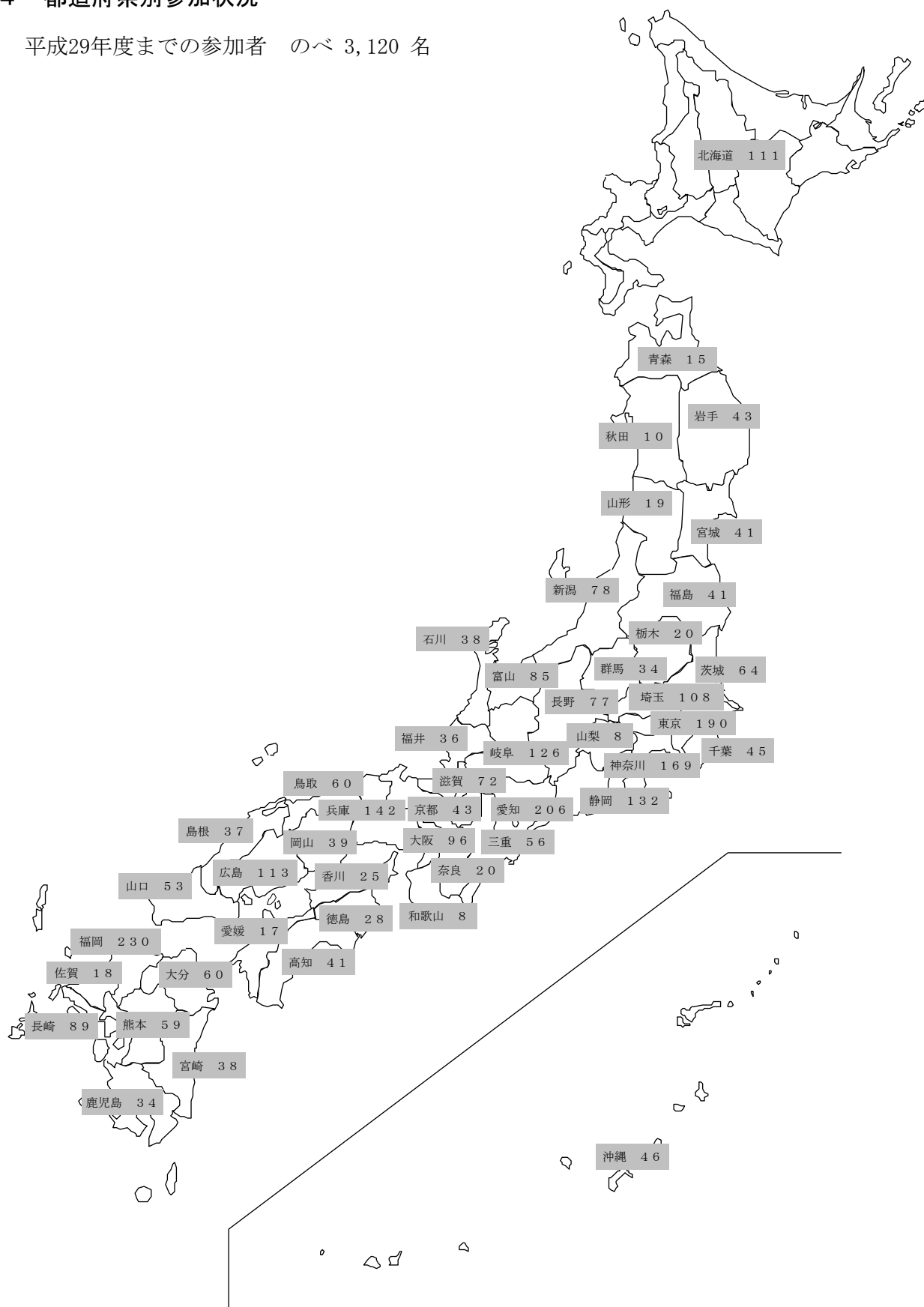


年度	セッション名	開催日時	会場	参加者数	設定コース
平成27年度	札幌セッション	平成27年 7月 7日 ～ 7月10日	札幌市教育文化会館 (北海道札幌市)	43名	ホール入門コース 17名 事業入門コース 10名 音楽コース 16名
	(東京・赤坂開催)	平成27年10月6日～8日	地域創造会議室	17名	公立ホール・劇場マネージャーコース 17名
	北九州セッション	平成28年 2月16日 ～ 2月19日	北九州芸術劇場 (福岡県北九州市)	48名	ホール入門コース 20名 音楽コース 15名 演劇コース 13名
平成28年度	上田セッション	平成28年 7月 5日 ～ 7月 8日	サントミューゼ 上田市交流文化芸術センター (長野県上田市)	56名	ホール入門コース 21名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 17名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 18名
	(東京・赤坂開催)	平成28年10月12日～14日	地域創造会議室	15名	公立ホール・劇場マネージャーコース 15名
	豊田セッション	平成29年 2月21日 ～ 2月24日	豊田市民文化会館 (愛知県豊田市)	59名	ホール入門コース 20名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 22名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 17名
平成29年度	高知セッション	平成29年 7月 4日 ～ 7月 7日	高知県立美術館 (高知県高知市)	41名	ホール入門コース 17名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 10名 自主事業Ⅱ(舞台芸術)コース 14名
	(東京・赤坂開催)	平成29年10月16日～18日	地域創造会議室	19名	公立ホール・劇場マネージャーコース 19名
	横浜セッション	平成30年 2月20日 ～ 2月23日	横浜みなとみらいホール (神奈川県横浜市)	42名	ホール入門コース 22名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 20名

3,120名(横浜セッション終了時点での修了者)

## 4 都道府県別参加状況

平成29年度までの参加者 のべ 3,120 名



## Ⅱ 平成29年度事業

## 1 事業概要

### (1) ステージラボ 高知セッション

開催期日	平成 29 年 7 月 4 日 (火) ~7 月 7 日 (金)
開催会場	高知県立美術館 (高知県高知市高須 353-2)
開催体制	主催：一般財団法人地域創造 共催：高知県、公益財団法人高知県文化財団
対象者	「ホール入門コース」 公共ホール・劇場（開館準備のための組織を含む。）において、業務経験年数 1 年半未満程度（開館準備のための組織にあっては年数不問）の職員。  「自主事業Ⅰ（音楽）コース」 自主事業を実施している公共ホール・劇場で、音楽の自主事業に積極的に取り組みたいと考えている、業務経験年数が 2~3 年程度の職員。  「自主事業Ⅱ（舞台芸術）コース」 自主事業を実施している公共ホール・劇場で、舞台芸術の自主事業に積極的に取り組みたいと考えている、業務経験年数が 2~3 年程度の職員。

### (2) ステージラボ 横浜セッション

開催期日	平成 30 年 2 月 20 日 (火) ~2 月 23 日 (金)
開催会場	横浜みなとみらいホール (神奈川県横浜市西区みなとみらい 2-3-6)
開催体制	主催：一般財団法人地域創造 共催：公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 後援：横浜市
対象者	「ホール入門コース」 公共ホール・劇場（開館準備のための組織を含む。）において、業務経験年数 1 年半未満程度（開館準備のための組織にあっては年数不問）の職員。  「自主事業（音楽）コース」 自主事業を実施している公共ホール・劇場で、音楽の自主事業に積極的に取り組みたいと考えている、業務経験年数が 2~3 年程度の職員。

## 2 参加者の属性

### (1) 高知セッション

コース名	ホール入門	自主事業Ⅰ (音楽)	自主事業Ⅱ (舞台芸術)	合計
参加者数	17	10	14	41

参考：参加申込者数42名

#### ①都道府県別

	入門	自主事業Ⅰ	自主事業Ⅱ	合計
北海道	2		1	3
青森				
岩手				
宮城				
秋田				
山形				
福島				
茨城	2		1	3
栃木				
群馬				
埼玉				
千葉				
東京	1			1
神奈川		3		3
新潟	1			1
富山				
石川				
福井				
山梨				
長野	1			1
岐阜				
静岡				
愛知	1		3	4
三重	1			1
滋賀				
京都		1		1
大阪				
兵庫	1	1	2	4
奈良				
和歌山				
鳥取				
島根				
岡山	1		1	2
広島	1	1	1	3
山口				
徳島				
香川	1			1
愛媛				
高知		1		1
福岡	2	1	3	6
佐賀				
長崎	1		1	2
熊本	1			1
大分		1		1
宮崎			1	1
鹿児島				
沖縄		1		1
合計	17	10	14	41

#### ②採用形態別

	入門	自主事業Ⅰ	自主事業Ⅱ	合計
公務員	3	1	5	9
指定管理者	14	8	9	31
その他		1		1
合計	17	10	14	41

#### ③性別

	入門	自主事業Ⅰ	自主事業Ⅱ	合計
男	7	1	7	15
女	10	9	7	26
合計	17	10	14	41

#### ④年代別

	入門	自主事業Ⅰ	自主事業Ⅱ	合計
20代	9	4	5	18
30代	6	3	7	16
40代	2	3	1	6
50代			1	1
合計	17	10	14	41

(2) 豊田セッション

コース名	ホール入門	自主事業 I (音楽)	合計
参加者数	22	20	42

参考：参加申込者数59名

①都道府県別

	入門	自主事業 I	合計
北海道	1	2	3
青森			
岩手	2		2
宮城	1		1
秋田	1		1
山形			
福島			
茨城		1	1
栃木			
群馬			
埼玉			
千葉			
東京	1	2	3
神奈川		2	2
新潟			
富山			
石川			
福井			
山梨			
長野	1	1	2
岐阜	1		1
静岡	1	1	2
愛知	2	3	5
三重		1	1
滋賀			
京都			
大阪	2		2
兵庫	1	3	4
奈良			
和歌山			
鳥取	1	1	2
島根			
岡山			
広島		1	1
山口			
徳島			
香川			
愛媛			
高知	1		1
福岡	2	1	3
佐賀			
長崎	1		1
熊本	1	1	2
大分			
宮崎	1		1
鹿児島			
沖縄	1		1
合計	22	20	42

②採用形態別

	入門	自主事業 I	合計
公務員	5	1	6
指定管理者	17	18	35
その他		1	1
合計	22	20	42

③性別

	入門	自主事業 I	合計
男	7	5	12
女	15	15	30
合計	22	20	42

④年代別

	入門	自主事業 I	合計
20代	10	11	21
30代	9	7	16
40代	3	2	5
50代			
合計	22	20	42

### 3 コーディネーター・講師一覧

#### (1) ステージラボ 高知セッション

##### 【コーディネーター】

###### ○ホール入門コース

大月 ヒロ子（有限会社アイデア代表取締役／国立歴史民俗博物館客員准教授）

###### ○自主事業Ⅰ（音楽）コース

中村 透（作曲家／芸術文化学博士／琉球大学名誉教授／（一財）地域創造顧問  
／前南城市文化センターシュガーホール芸術監督）

###### ○自主事業Ⅱ（舞台芸術）コース

大谷 燦（NPO 法人 DANCE BOX 理事長・エグゼクティブディレクター）

##### 【講師】

###### ○ホール入門コース

水野 茂樹（八戸市まちづくり文化スポーツ観光部新美術館建設推進室 主査）

岡亜 希子（NPO 法人体験学習研究会プログラムコーディネーター／GEMS リーダー&アソシエイト）

###### ○自主事業Ⅰ（音楽）コース

鳴尾 牧子（二胡奏者）

井尻 兼人（チェロ奏者）

大城 貴幸（歌三線奏者）

前田 克治（ピアニスト／高知大学准教授）

###### ○自主事業Ⅱ（舞台芸術）コース

乗越 たかお（舞踊評論家／(株)ジャパン・ダンス・プラグ代表）

隅地 茉歩（ダンサー／セレノグラフィカ）

阿比留修一（ダンサー／セレノグラフィカ）

浜田あゆみ（ふたりっこプロデュース代表）

大澤 苑美（八戸市まちづくり文化スポーツ観光部まちづくり文化推進室芸術環境創造専門員）

###### ○共通プログラム

イワン・エフェンディ（ペーパームーン・パペット・シアター）

マリア・トリ・スリスチャニ（ペーパームーン・パペット・シアター）

#### (2) ステージラボ 横浜セッション

##### 【コーディネーター】

###### ○ホール入門コース

草加 叔也（有限会社空間創造研究所 代表）

###### ○自主事業（音楽）コース

児玉 真（一般財団法人地域創造 プロデューサー）

##### 【講師】

###### ○ホール入門コース

松井 憲太郎（富士見市民会館 館長）

隅地 茉歩 (ダンサー/セレノグラフィカ)

阿比留修一 (ダンサー/セレノグラフィカ)

佐藤 玄 (パルコエンタテインメント事業部 劇場担当部長)

星乃もと子 (シアターマネージメントプラン 代表取締役)

龍 亜希 (北九州芸術劇場 プロデューサー)

#### ○自主事業 (音楽) コース

中 彩香能 (三味線奏者)

五十川真子 (三味線奏者)

矢吹 修一 (いわきアリオス)

衣川絵里子 (神戸市灘区民センター/(株)Evenif)

田澤 拓朗 (上田サントミュージゼ)

生田 創 (長久手文化の家)

#### ○共通プログラム

新井 鷗子 (東京藝術大学 社会連携センター 特任教授)

菊地 健一 (横浜みなとみらいホール)

堀 利文 (横浜みなとみらいホール)



## 4 スタッフ一覧

### (1) ステージラボ高知セッション

○一般財団法人地域創造

佐倉 誠 (企画課長)

津村 卓 (プロデューサー)

高澤 佑貴 (ホール入門コース)

工藤 茂 (自主事業Ⅰ (音楽) コース)

佐藤 康平 (自主事業Ⅱ (舞台芸術) コース)

吉崎 元章、水上 俊秀、栗林 礼也、梅田 知孝、宇野加奈子 (事務局)

○高知県立美術館

藤田 直義 (館長)

永野 英志 (副館長)

浜口 眞吾 (企画事業課課長補佐)

政岡 知実、長山 美緒 (ホール入門コース)

秦泉寺なほ、山脇 有美 (自主事業Ⅰ (音楽) コース)

松本 千鶴、朝倉 芽生 (自主事業Ⅱ (舞台芸術) コース)

○横浜みなとみらいホール (次回開催館)

末広 思帆 (経営グループ運営チーム)

### (2) ステージラボ 横浜セッション

○一般財団法人地域創造

佐倉 誠 (企画課長)

津村 卓 (プロデューサー)

鈴江真由子 (ホール入門コース)

米山 沙里 (自主事業 (音楽) コース)

梅田 知孝、宇野加奈子、高澤 佑貴 (事務局)

○横浜みなとみらいホール

池辺晋一郎 (館長)

末広 思帆 (経営グループ運営チームリーダー)

渡邊 舞 (経営グループ運営チーム)

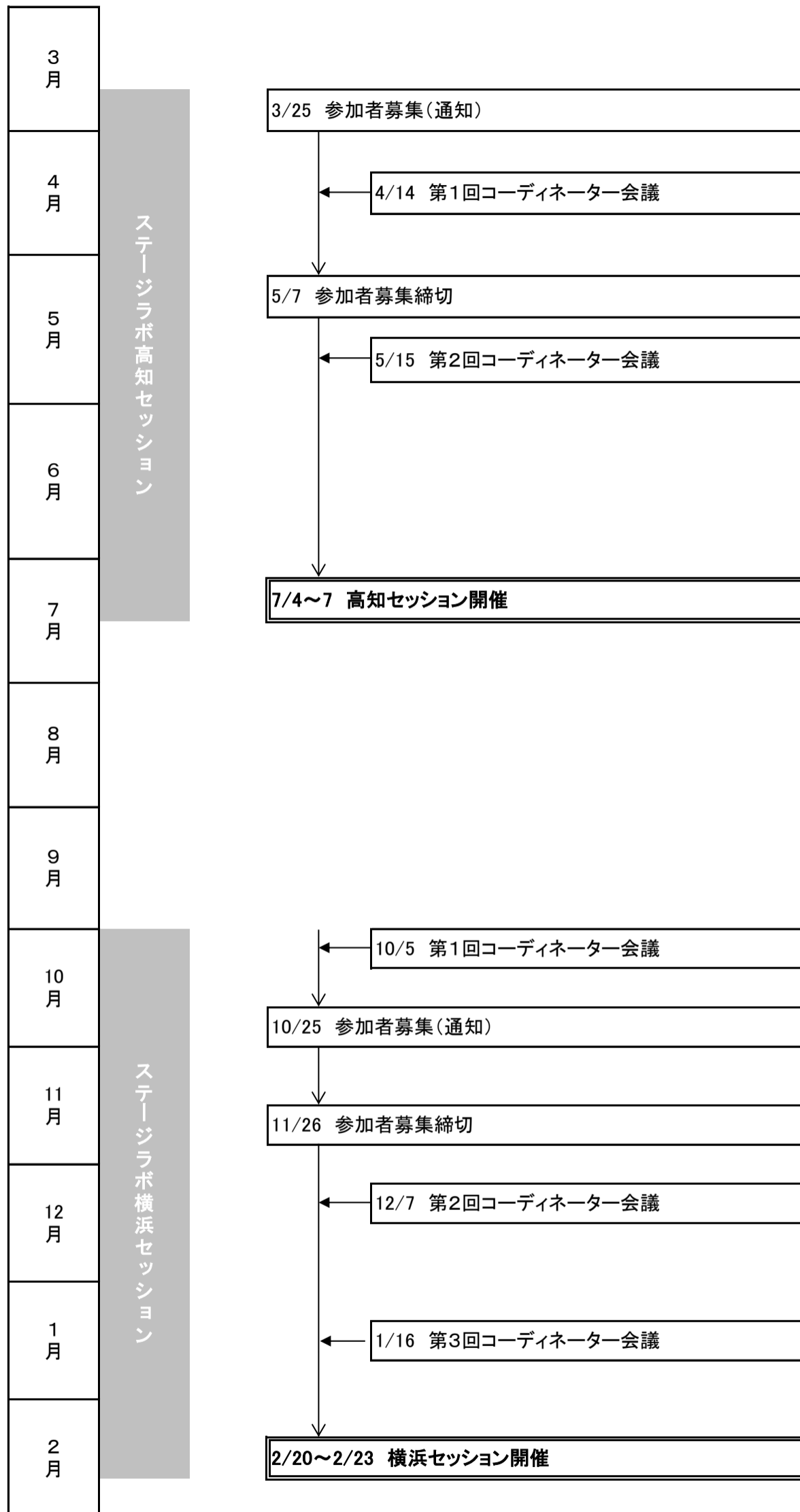
新野見佳奈 (ホール入門コース)

河合 美幸 (自主事業 (音楽) コース)

○びわ湖ホール (次回開催館)

西前 悠 (事業部)

5 実施日程（参加者募集～研修実施の流れ）



## IV ステージラボ

### 横浜セッション

■7月4日(火) 第1日

【研修スケジュール】

	ホール入門コース	自主事業I(音楽)コース	自主事業II(舞台芸術)コース
コーディネーター	大月 ヒロ子 有限会社アイデア代表取締役 ／国立歴史民俗博物館客員准教授	中村 透 作曲家／芸術文化学博士 ／琉球大学名誉教授／(一財)地域創造顧問 ／前南城市文化センターシュガーホール芸術監督	大谷 燠 NPO法人DANCE BOX 理事長・エグゼクティブディレクター ／神戸アートビレッジセンター館長
主会場	楽屋3(和室)	講義室	リハーサル室
09:00			
10:00			
11:00			
12:00			
13:00			
14:00	13:30 受付		
15:00	14:00 開講式・オリエンテーション 会場:ホール		
16:00	15:00 ゼミ「はじめに」 講師:大月ヒロ子 会場:楽屋3(和室)	15:00 ゼミ「インタラクティブゼミ: コミュニティ音楽のワークショップと わがまちの音楽風景を語る」 講師:中村透 会場:講義室	15:00 ゼミ「ワークショップ形式の自己紹介/ アートと地域社会を多様な角度からつなぐ。 NPO法人DANCEBOXの活動事例の紹介」 講師:大谷燠 会場:リハーサル室
17:00			
18:00	休憩・移動	休憩・移動	休憩・移動
19:00	19:00～20:30 全体交流会 会場:高知パレスホテル		
20:00			
21:00			

■7月5日(水) 第2日

【研修スケジュール】

	ホール入門コース	自主事業I(音楽)コース	自主事業II(舞台芸術)コース
主会場	リハーサル室	講義室	ホール
10:00			
11:00	10:00 ゼミ2「ステージラボに参加して考えたこと」 講師:水野茂樹 (八戸市まちづくり文化スポーツ観光部 新美術館建設推進室 主査)、大月ヒロ子 会場:リハーサル室	10:00 ゼミ2「ワークショップゼミ: 音楽の姿発見① 糸の音と技」 講師:鳴尾牧子(二胡奏者)、 井尻兼人(チェロ奏者)、中村透 会場:講義室	10:00 ゼミ2「世界の最新ダンスと、 「次のダンス」を生み出すツボを探る①」 講師:乗越たかお (舞踊評論家/榊ジャパン・ダンス・ブラグ代表)、 大谷燠 会場:ホール
12:00	昼食・休憩	昼食・休憩	昼食・休憩
13:00			
14:00	13:00 ゼミ3「廃材と循環するモノ・コト・ヒト」 講師:大月ヒロ子 会場:リハーサル室	13:00 ゼミ3「企画デザインゼミ①A: 糸の音・音楽シーンをつくる」 講師:鳴尾牧子、井尻兼人、中村透 会場:講義室	13:00 ゼミ3「世界の最新ダンスと、 「次のダンス」を生み出すツボを探る②」 講師:乗越たかお、大谷燠 会場:ホール
15:00	休憩(15分程度)	休憩(15分程度)	休憩(15分程度)
16:00	15:15 ゼミ4「仕事の道具から知る歴史と文化」 講師:岡亜希子 (NPO法人体験学習研究会プログラムコーディネーター/ GEMSリーダー&アソシエイト)	15:15 ゼミ4「企画デザインゼミ①B: 糸の音・音楽シーンをつくる/発表と合評」 講師:鳴尾牧子、井尻兼人、中村透 会場:講義室、ホワイエ	15:15 ゼミ4「実験その1ダンスで遊ぼう!」 講師:セレノグラフィカ(隅地茉歩/阿比留修一)、 大谷燠 会場:ホール
17:00	会場:リハーサル室	会場:講義室、ホワイエ	会場:ホール
	休憩(15分程度)	休憩(15分程度)	休憩(15分程度)
18:00	17:30~20:30 共通プログラム『ペーパームーン・パペット・シアター 新作人形劇「和紙を透かして」(インドネシア)』-共同制作体験 会場:ホール		
19:00			
20:00			
21:00			

■7月6日(木) 第3日

【研修スケジュール】

	ホール入門コース	自主事業I(音楽)コース	自主事業II(舞台芸術)コース
	コーディネーター 大月 ヒロ子 有限会社アイデア代表取締役 ／国立歴史民俗博物館客員准教授	コーディネーター 中村 透 作曲家／芸術文化学博士 ／琉球大学名誉教授／(一財)地域創造顧問 ／前南城市文化センターシュガーホール芸術監督	コーディネーター 大谷 燠 NPO法人DANCE BOX 理事長・エグゼクティブディレクター ／神戸アートビレッジセンター館長
主会場	リハーサル室	講義室	ホール
10:00			
11:00	10:00 ゼミ5「街に出よう①」 講師:大月ヒロ子 会場:高知市内	10:00 ゼミ5「ワークショップゼミ: 音楽の姿発見② 声とことばのリズム」 講師:大城貴幸(歌三線奏者)、中村透 会場:講義室	10:00 ゼミ5「実験その2ダンスを作ろう!」 講師:セレノグラフィカ(隅地茉歩/阿比留修一)、 大谷燠 会場:ホール
12:00			
13:00	昼食・休憩	昼食・休憩	昼食・休憩
14:00	13:00 ゼミ6「街に出よう②」 講師:大月ヒロ子 会場:高知市内	13:00 ゼミ6「企画デザインゼミ②A: 声と物語の音楽シーンをつくる」 講師:大城貴幸、中村透、 前田克治(ピアノ/高知大学准教授) 会場:講義室	13:00 ゼミ6「舞台芸術は 消えゆく伝統を救えるのか?」 講師:浜田あゆみ(ふたりっこプロデュース代表)、 大谷燠 会場:いの町内
15:00	休憩(15分程度)	休憩(15分程度)	
16:00	15:15 ゼミ7「館内インタビュー」 講師:岡亜希子 会場:高知県美術館内	15:15 ゼミ7「企画デザインゼミ②B: 声と物語の音楽シーンをつくる/発表と合評」 講師:大城貴幸、前田克治、中村透 会場:講義室、ホール	
17:00			
18:00	休憩(15分程度)	休憩(15分程度)	
19:00	17:30 ゼミ8「経験のシェアからカードづくり」 講師:岡亜希子 会場:リハーサル室	17:30 ゼミ8「ケース・スタディ:わがまちのレガシー: シュガーホールと市民ミュージカル」 講師:中村透、大城貴幸 会場:講義室	
20:00			
21:00			

■7月7日(金) 第4日

【研修スケジュール】

	ホール入門コース	自主事業I(音楽)コース	自主事業II(舞台芸術)コース
	コーディネーター 大月 ヒロ子 有限会社アイデア代表取締役 /国立歴史民俗博物館客員准教授	コーディネーター 中村 透 作曲家/芸術文化学博士 /琉球大学名誉教授/(一財)地域創造顧問 /前南城市文化センターシュガーホール芸術監督	コーディネーター 大谷 燠 NPO法人DANCE BOX 理事長・エグゼクティブディレクター /神戸アートビレッジセンター館長
主会場	リハーサル室	講義室	ホール
10:00			
11:00	10:00 ゼミ9「コミュニティーのホールの 広報資料づくり」 講師:岡亜希子 会場:リハーサル室	10:00 ゼミ9「ディスカッション: わがまちの音楽シーンを構想する」 講師:中村透 会場:講義室	10:00 ゼミ7「地域とダンスが 出会うアートプロジェクト」 講師:大澤苑美 (八戸市まちづくり文化スポーツ観光部 まちづくり文化推進室芸術環境創造専門員)、 大谷燠 会場:ホール
12:00	昼食・休憩	昼食・休憩	昼食・休憩
13:00			
14:00	13:00 ゼミ10「振り返り」 講師:大月ヒロ子 会場:リハーサル室	13:00 ゼミ10「レクチャー: おんがく・ひと・コミュニティ」 講師:中村透 会場:講義室	13:00 ゼミ8「ゼミ全体の振り返り」 講師:大谷燠 会場:楽屋3(和室)
15:00	14:30 アンケート記入・休憩・移動	14:30 アンケート記入・休憩・移動	14:30 アンケート記入・休憩・移動
16:00	15:00 修了式 会場:ホール		
17:00			
18:00			
19:00			
20:00			
21:00			

## 2 各コースについて

### (1) ホール入門コース

#### ① 総評

コーディネーター 大月 ヒロ子

入門コースの参加者の皆様、講師の方々、また、それを支えてくださった関係者やまちの方々、大変お世話になりました。そして、ありがとうございました。

夏の台風と共に幕開けするという波乱含みのスタートで、内心どうなることかと思っていた町歩きも、奇跡的に大雨に降られることなく無事体験していただけて、ホッとしました。館が、町の中心部からはちょっと離れているため、時間内に収まるかどうか心配しましたが、高知ならではの路面電車を上手に使ったり、回るコースに工夫をしたりと、受け入れ側の地元出身のスタッフの方々に、きめ細やかな配慮をいただき、予定通り進めることができました。ありがとうございました。

目をこらすと、私たちの身の回りには様々な興味深い場所や、そこに生きる素敵なお方々が大勢います。普段あまりにも自然に過ごしているのだから、あらためてお話を聞いたりすることはない仕事場の仲間についても、これまで知らなかったエピソードを聞くことによって、その方々への理解が深まったり、さらなる興味や親しみが湧いてきたりということもあるでしょう。私たちの身の回りはそのような、ヒトやモノやコトで複雑に構成されています。また、それらが有機的につながり、互いに影響を与えあっています。

自分の仕事から、あるいは自分の立ち位置から見たコトやヒトやモノだけではなく、時折、これまでとはちがった位置から周りを見回すことは、新たな発見も多いでしょうし、捉え方がより正確に、深くなります。

仕事に煮詰まった時も、この入門コースでおこなった、あれやこれやを思い出していただき、ちょいと視線をずらしたり、まちに出かけたり、ヒトの話を聞いてみたり、仕事の道具を見せてもらったりすることで、皆様の気持ちがすこし楽になれば嬉しいです。

今回、皆様とご一緒することで、私自身も知らない世界やモノにたくさん出会いワクワクしました。大人を長いこと続けていても、世界は知らないことに満ち溢れており、その一つ一つを知っていくことは、子どもが何かを獲得していくのと同じような喜びをもたらしてくれるのだと、再確認する機会にもなりました。

だからこそ、その知見をお互いに交換し、オープンにして、さらに多くの方々とシェアしていくことは、とても意味があるのだと思います。

そうすることによって、世の中を構成するものに対する、肯定的な気持ちも生まれてきます。

文化施設とは、そういったことを日常的に行う場なのではないでしょうか。そこに身を置く皆様自身が、まずは知らない世界やモノにたくさん出会いワクワクすること。そしてオープンでフラットな場で、世の中を構成するものには不思議で面白く、美しいものが多く含まれているのだと、いらしてくださる方々に伝えること。それらは、とても意味のある重要な仕事だと思います。

どんな仕事にも、人知れずの努力があり、他人に対してのさりげない気遣いがあり、また自分自身に対する厳しさや、それに打ち込む静かな情熱のようなものが存在します。インタビューに答えてくださった方々からは、それらがたつぷりと伝わってきたのではないかと思います。

入門コースが終わって、それぞれの現場に帰って行かれた参加者の皆さまが、今後も連絡を取り合い、互いに相談しあえる関係性をつないでいただけると嬉しいです。

私はこのところ活動のベースである岡山県内をウロウロしています。若くて意欲を持った人たちが、随分と都市から流出し、地方に仕事や生活の場を移していることを、肌身で感じています。都市と地方のあり方が大きく変わっていくような時代を迎えているのでしょう。

どうぞ皆さま、これからも良いお仕事されますように。



## ② ゼミ記録

—第1日— 7月4日 (火)

### ゼミ1 「はじめに」

講 師： 大月 ヒロ子

入門コースのプログラムに関して全体の流れを説明したあと、参加者それぞれが持ち寄った、地元のお茶請けを紹介しつつ、働いている施設や組織の紹介を丁寧に行いました。日本中からやってくる参加者の活動の背景が分かるとともに、どんな課題を抱えているかも、さわりだけでしたがうかがい知ることが出来ました。



—第2日— 7月5日 (水)

### ゼミ2 「ステージラボに参加して考えたこと」

講 師： 水野 茂樹

ステージラボ経験者である水野さんより、参加後のあれやこれ、参加の動機、プログラムの途中で考えたこと、帰ってから考えたことなど、率直な気持ちをうかがいました。また、新美術館建設準備室でお仕事をされる立場から、組織の中での仕事の進め方のアドバイスなど、具体的なお話が皆さんの気持ちを引きつけていました。



### ゼミ3 「廃材と循環するモノ・コト・ヒト」

講師： 大月 ヒロ子

大月が倉敷市玉島の私設実験室「IDEA R LAB」で行っている廃材関連の様々なプロジェクト、創造活動や国内の様々な場所で育っている、実験室発のプロジェクトを紹介しました。

なぜ、廃材なのか。廃材が何を引き起こすのか、考えながら、クリエイティブリユース活動の副産物でもある廃材カードゲームを体験しながら、正解も間違いもないイメージーションの世界で遊びました。

見向きもされないゴミが、人と人をつなぐツールとなったり、イメージーション掻き立てたりすること、それらがコミュニティにふんだんにあることが、体験を通して伝えられました。



### ゼミ4 「仕事の道具から知る歴史と文化」

講師： 岡亜 希子

民具オモシロガリストは何なのか。そして、なにを目指すのか、じっくりとうかがいました。全国津々浦々にある郷土資料館や小さな博物館、古民家や農家などには、長らく放置されたままの民具や民具資料が眠っています。

私たちの生活を根底から支えてきた、暮らしに欠かせない道具類も、今では使い方がわかる人も少なくなりました。

民俗学の分類や保存の目線ではなく、民具そのものの形や佇まいに注目しながら、みんなでその道具を見つめ直すこと、また使い手の方から話を聞くことで、新たな魅力が浮かび上がってきます。

持参いただいた民具をみんなで撮影して2日目の準備としました。



### ゼミ5 「街に出よう①」

講師： 大月 ヒロ子

午前中は入門コース全員で訪問となった、珊瑚細工の工房と手作りシャツ屋さん。ご高齢の珊瑚作家さんのお仕事に対する意欲的な姿勢と、シャツ屋さんご夫妻の年月を重ねてきた絶妙のやりとりと、魅力的な道具類に一同感激した。

参加者は仕事の内容や暮らし、地域について各々インタビュー。あわせて道具の撮影も行いました。

昼食後のひろめ市場での集合を確認した後は、グループごとに割り当てられた工房や会社の訪問先に散っていきました。



### ゼミ6 「街に出よう②」

講師： 大月 ヒロ子

街で働く様々な専門家を訪ね、仕事道具を見せてもらいながら、仕事の内容や暮らし、地域についてインタビュー。

あわせて道具の撮影も行いました。訪問したのは、彫金工房、和紙店、建物のリノベーションと活用を行っている方のオフィス、石屋さんなどなど。高知の町をうろろしながら、また、路面電車で揺られながら、インプットしたことを反芻しつつ、おしゃべりしながら。。。

グループの性格もこの辺りになると、はっきりと見えてきました。



## ゼミ7 「館内インタビュー」

講師： 岡亜 希子

今回の会場である高知県立美術館と劇場で働くスタッフと、ステージラボの講師などを務める様々な専門家の仕事道具を見せてもらいながら、インタビューと仕事道具の撮影をおこないました。

各参加者たちの日頃の職場にもいらっしゃるかもしれない職種の方に、あえて、じっくりお話を伺う機会は、意外に少ないもの。場所と人は違えども、きっとそれぞれの現場に戻った時に、このときインタビューで深く心に刻まれたことを思い出されるのではないのでしょうか。

照明さん、音響さん、ショップ担当者、監視員、警備員、学芸員、ダンサーなどなど。一人一人の力が合わさっての総体としてのホールであり館である、当たり前なのが、実感としてじんわりと実感できる瞬間でもありました。またその一人一人がプロフェッショナルとして、人知れず努力や工夫をしていることにあらためて感動もしました。



## ゼミ8 「経験のシェアからカードづくり」

講師： 岡亜 希子

みんなで収集した館内・館外のインタビューの内容や仕事道具の写真を整理し、住民とホールの活動をつなぐような、高知県立美術館通信の企画を練る作戦会議に入りました。各グループ、何を伝える通信とするのか、その方向性に悩みます。素材は同じでもグループごとに全く違うものができそうな雰囲気となってきました。



—第4日— 7月7日 (木)

## ゼミ9 「コミュニティーのホールの広報資料づくり」

講師： 岡亜 希子

街に出て人に会い、館内の様々な人に耳を傾け、目を開いて受け止めたコトを手掛かりに作る高知県立美術館通信。

各グループ、ギリギリまで、制作しました。





※（写真：ゼミ9 「コミュニティーのホールの広報資料づくり」）

### ゼミ10 「振り返り」

講師： 大月 ヒロ子

各グループの手になる高知県立美術館通信の発表、入門ゼミのプログラムの時間軸に沿った振り返りと、ディスカッション。現場に戻るにあたっての心構えなど、仲間とじっくり話をしました。



## (2) 自主事業Ⅰ(音楽)コース

### ① 総評

コーディネーター 中村 透

公共ホールの自主事業の企画・運営は、組織形態の多様化と予算規模の二極化によって大きな曲がり角を迎えていると認識している。また、少子高齢化、世代間の断裂、孤立、経済的困窮等の社会問題も、今日文化芸術を巡る新たな環境課題として横たわっている。

組織力や有能な人材を得られる大都市の大型の公共ホールでは、創造発信型の自主事業や社会包摂型の事業が活発に行われるようになってきた一方、地方の中小規模自治体のホールでは、財政の影響下、組織人員と予算の縮小傾向もみられ、自主事業の制作・運営体制が必ずしも充分でない状況もみられる。

こうした状況認識のもとで、本コースが応募予定者に送ったメッセージは、「いかに優れた芸術であっても、それらが地域に生きる人たちとの確かな相互作用によって広く、深く受容され、日常の精神生活に創造的かつ持続的な刺激系として作動しなければ、公共性は発揮できない。多様な音楽の姿を模索しながら地域に生きる人たちに働きかけ、その個々の創造的やコミュニティの絆を惹き起していくかを、ともに考え、実験するコースとしたい」というものであった。

公共ホールで音楽プログラムを企画・提供するときに、私たちはしばしば音楽の美と感動を自明のこととしがちである。しかし、その音楽の材質や内容、スタイル、さらにはアーティストの演奏スタイルという文化コードが、まずはマネジメントする者に、そしてオーディエンスと市民に共有されていなければ、真の意味でインタラクティブな芸術刺激の還流は成り立たないという意味である。

受講生 10 名の所属は、大規模館/財団が 8 名、小規模館/直営 1 名、NPO 法人 1 名で、うち 4 名は現在も楽器の演奏活動を行っている受講生であった。ホール経験年数は 2～3 年が中心で、今後の取り組みへの事業構想として、学校教育との連携、青少年対象の音楽、ワークショップと一体化した公演、伝統文化と在留外国人との協働による音楽創造、市民参加型の音楽フェスティバル等の事業を上げており、地域文化、市民文化に向かう姿勢が窺えた。

コースは、ゼミ生相互のコミュニケーションを活性化させるためのワークショップから開始した。以降順次、チェリスト、二胡奏者、沖縄伝統楽器奏者・歌手、即興ピアニストの実演家アーティストとともに、自らの楽器演奏体験も交えながら、楽器の知識、奏法、楽曲の内容とスタイルについて学び、それにもとづいて「絵画と音楽」、「物語と音楽」をテーマに、市民とアーティスト協働による創造を仮定したワークショップとリフレクションを実施した。

アーティストと、いわば膝突き合わせながらの協働は、すべてのゼミ生にとって初体験であった。一方で、アーティストにとっても“未知の領域”ともいえる協働体験は、かなり刺激的であったことが報告された。“ともに創りあげる”という経験ののちに聴く音楽は、当然まったくことなった文脈に生命をもった音楽の“聞こえ”でもあったことだろう。

最終日は、ワークショップを中心としたゼミを振り返りながら、地域の公共ホールへの展望という方向での討議を行い、最後は、コーディネーターによる「おんがく・ひと・コミュニティ/身の協働が拓く芸術行動の輪」という講話で締めくくった。

ゼミ生の年齢が若くかつ近かったことも幸いしてか、日を迫うにつれ協働の質と熱が高まっていった。今後も、相互にネットワークを密にして情報交換を続け、それぞれが「わがまちの芸術文化」発展のために連携していくことを期待している。

## ②ゼミ記録

◆音楽コースは、以下の活動を組み合わせて実施された。

**WS** = ワークショップ

**鑑賞** = アーティスト音楽実演の鑑賞

**討議** = ゼミ生によるディスカッション

**表現** = ゼミ生とアーティストの共同のパフォーマンス

**講義** = 講師のレクチャーまたは解説

—第1日— 7月4日 (火)

ゼミ1 「インタラクシオンゼミ：コミュニティ音楽のワークショップとわがまちの音楽風景を語る」

講師： 中村 透

ゼミ生の目的意識とキャリアを判断し、相互のコミュニケーション力を向上させるための開始ゼミであった。

全ゼミで行われるワークショップでの“遊ぶ *play*”ということについて、R. カイヨワ「遊びと人間」より援用しながら、その意味をまず共有した。つづいて、五感とその対象距離、優位性、なかでも“聴く”ことの心理的、歴史的意味について説明した。音楽ワークショップ“送る、聴く、受け止める=イメージする“を開始。



**WS** トーン・チャイム (*T. Ch.*) を用いて2～3名が円状に座って (*inside listener*) 聴くことに集中し、そのまわりを *T. Ch* 係 (*sender*) が多様なサウンドを鳴らし、止め (*silence*)、歩き回り、近づき、離れる。パフォーマンス行動の空間性について振り返る。包囲型、行列型、対向型 (現在の劇場型) と、それぞれの歴史と特性があること。学校におけるアウトリーチ、コミュニティアートでは、空間デザインを自由に発想する必要があることを確認した。

**討議** 「わがまちの音楽風景を語る」では、各ゼミ生によって、地域の音楽文化をプレゼンテーション。伝統芸能とオーケストラの共演、湯布院音楽祭とボランティア、小倉祇園太鼓、よさこい祭り、子どもオペラ教室、国際フルート・コンクールの新しい展開、京都岡崎音楽祭とスポンサーシップ、学校・商店街・町内会をむすぶ音楽イベント、横浜音楽とスーパー・ユニバーサルを試み、10万人のジャズ・フェスタ等の話題が報告された。ただし、プレゼンターの語り内容が拡散するケース、制限時間を超えるケースが多々あった。

**講義** プレゼンテーションの技術は、ホールで企画・運営するために必須である。講師からテーマに沿ったプレゼンのありかたについてフォロー・トークを行った。一定条件 (目的と場、誰に、なぜ、時間) のなかで ①ポイントを絞る (主題・題材はなにか)、②プレゼンの手順を設定する、演繹法か帰納法か、③. 具体的事例を、イメージ (像) も用いながら聴き手とシェアできるように表現する、④主観的評価と客観的評価を比較的に述べる、⑤主筋を再確認する、ように伝えた。

## ゼミ2 「ワークショップゼミ：音楽の姿発見① 糸の音と技」

講師： 鳴尾 牧子、井尻 兼人、中村 透

キーワードは、“聴く、見る、描く＝想像する、創造する”である。

**鑑賞** 二胡を聴く：鳴尾牧子氏演奏<二泉映月><塞馬>

←ゼミ生は、楽器と身体インターフェースを観察する

チェロを聴く：井尻兼人氏演奏<バッハ：無伴奏組曲プレリュード><ジュリー・オー>

←ゼミ生は、楽器と身体インターフェースを観察する

いずれも、緩急の2曲を選曲してもらい、叙情的な曲と、ハイテクニックの曲の演奏法を至近距離で観察した。つづいて、記憶をたどって楽器をイラスト風にスケッチし（WS）、それを相互に見せ合う。楽器の観察力を自己確認する作業であった。



## ゼミ3 「企画デザインゼミ①A：糸の音・音楽シーンをつくる」

講師： 鳴尾 牧子、井尻 兼人、中村 透

**WS1** 二胡班、チェロ班に分かれて、それぞれ、楽器の演奏体験を行う。楽器の形状・構造・奏法を講師とともに学び、楽器演奏体験後に、各ゼミ生の自作楽器図を再度掲げ、体験後の修正トークを行う。

**講義** 講師鳴尾、井尻氏の楽器の歴史・構造・奏法について説明。

中村フォローで、音楽企画に際しては、扱う音楽の二次的な間接情報だけでなく、直接情報による音楽知識の重要性を指摘。

とくに、楽器やアーティストへの共感が大事であることを強調した。





**WS 2** ゼミ生からアーティストへ、イメージ・ワードによる即興演奏の要請（試行）。  
長い叙事的ストーリーに関して演奏家が窮する場面も散見された。

**講義** イメージ・ワードから即興演奏への渡しのフォローとして、以下を板書する。

事象の描写：音の現象（自然音、鳴き声、人為的な音）→模倣的に表せる。

例：ビジュアルディ四季、ショパン雨だれ、ベートーベン田園

空間的・物理的メタファー：高い低い→高い音、低い音

強い弱い→強い音、弱い・薄い音

速い遅い→テンポ速い、リズム細やか

テンポ遅い、リズムおおまか

気分・情感のメタファー：明るい（さわやか）→・・・のメロディー

はずむ→・・・のメロディー、アーティキュレーション

暗い（悲しい）→・・・のメロディー、ハーモニー

重い→・・・のリズム、ハーモニー

※なお、＜イメージ・ワード→即興演奏＞について、演奏を交え、必要なら楽譜も提示しながら、時間をかけたプレ・レクチャーをするのが望ましいと反省した。



**WS 3** 絵画（スライド投影によるシャガールほか）をみて、二胡、チェロの音楽をイメージするワークを行った。

**ゼミ 4 「企画デザインゼミ①B：糸の音・音楽シーンをつくる／発表と合評」**

**講師：** 鳴尾 牧子、井尻 兼人、中村 透

ゼミ 2, 3 をベースに、グループで音楽シーンを構想する場面であった。

**WS 1** アーティストとともに絵画をみて、イメージ・ワードと音楽像を構想する。

**WS 2** 二胡班、チェロ班に分かれて、会場の美術館に展示される実際の絵画を見歩き、構想を交わす。

**WS 3** 素材とする作品の順番を選び、イメージ・ワードと音楽を創る。音楽は、即興でも、既成曲（断片も可）でもよい。ただし、あくまでもアーティストとのコラボレーションであること。再現できるように、進行図を描く。仕上がった作品の発表（表演者）の役割を決めて、リハーサルを行いながら、シェイプアップする。

**表現** **討議** 発表と合評：ゼミ生コメント、アーティストコメント発表後、創造過程と作品を省察する。

**講義** WS.1～3について、フォロー解説した。

- ① 本来語り得ない音楽の言葉（それ自体で歴史的に、美的に、技術的に完成された体系）に、あえて私たち自身の言葉で侵入する試みである。
- ② 絵画のイメージそのものから、から意味を解体したことばを生み出し、音楽・音響とのコラボレーション／共作を試みるアート体験。
- ③ このように協働するに対応するアーティストの反応を知る。



—第3日— 7月6日（木）

ゼミ5 「ワークショップゼミ：音楽の姿発見② 声とことばのリズム」

講師： 大城 貴幸、中村 透

キーワードは、異文化の音楽とことば発見である。

**講義** 日本の近代文化における言葉（日本語／標準語・方言）の変遷と、リズム・イントネーションの多様性についてミニ・レクチャーを行った。

**鑑賞** 沖縄の伝統音楽を聴く：大城貴幸氏演奏く琉球古典音楽「かぎやで風節」ほか

**講義** 大城氏が、同曲の歌詞（琉歌と沖縄語）、沖縄の伝統芸能（古典芸能、民俗芸能）についてレクチャーし、沖縄の楽器三線、三板、胡弓、笛を紹介した。

**WS1** ゼミ生による伝統楽器の演奏体験

**WS2** 沖縄のリズムを体験する。

- ① 三板を打ち鳴らしながら、わらべ歌をうたう（数え歌「ていーち ていどうくん」）
- ② カチャーシーを踊る

**講義** 世界の多様な音楽文化は、それぞれの国や民族の生活文化を基層としている。沖縄では、独自の言語、宗教観、身体性の文化に根ざした音楽が、伝統芸能の姿として現れている。ゼミ生の生きる地域の文化に、共感の眼差しを持つことも、公共ホール音楽企画担当者の責務であろう。



## ゼミ6 「企画デザインゼミ②A：声と物語の音楽シーンをつくる」

講師： 大城 貴幸、中村 透、前田 克治

**講義** プレ・トーク 「楽器原論：楽器と人間のインターフェース」

ゼミ5までを振り返りながら、楽器と人間のインターフェースの視点から ①人間行動とモノとの関係（擦る、打つ（叩く）、吹く、弾く）から、②音響創出のシステム（ホルンボステル・ザックス楽器分類法）自（体）鳴楽器、弦鳴楽器、膜鳴楽器、気鳴楽器について説明する。

**鑑賞** ピアノ即興を聴く：前田克治氏演奏＜童謡“ひらいた”を、バッハ、モーツァルト、ドビュッシー、ジャズ風にアレンジした演奏を聴く。＞

**講義** 前田氏、音階、（長、短、全音ドビュッシー）、無調、ノイズ、クラスター等をキーワードに、音楽構成とピアノ演奏の多様なスタイルを解説。

**WS1** ゼミ生持参の、詩・ショートストーリーによるピアノ、三線とのパフォーマンス創造への **WS** である。作業手順を以下のように指示した。

- ① ゼミ生持参の、詩・ショートストーリーを発表する。
- ② テキストをグループ成員とアーティストとでシェアする。
- ③ 各自、自分のテキストに関する音楽・音響イメージをアーティストに語り、アーティストとインタラクションで構想する。

ex. 導入的、とりまとめイメージ的、BGM的、その他のイメージ・サウンド

- ④ ピアノ班（ホール）、三線班（講義室）に分かれ、アーティストとともに構想し、発表に向けて備える。



## ゼミ7 「企画デザインゼミ②B：声と物語の音楽シーンをつくる／発表と合評」

講師： 大城 貴幸、前田 克治、中村 透

**表現 討議** 発表と合評：ゼミ生のコメント、アーティストの省察コメントを交わす。辻井グループ&前田ピアノは、イメージストーリーと即興演奏の関係系が感度の高いものとなった。大槻グループ&大城三線は、民話の筋展開に沿ったBGM的なサウンド処理がきわだっていた。



## ゼミ8 「ケース・スタディ：わがまちのレガシー：シュガーホールと市民ミュージカル」

講師： 中村 透、大城 貴幸

講師中村の監督による南城市市民ミュージカル（シュガーホール）の制作過程と、上演の一部がVTRによって紹介された。このミュージカル制作の目的は ①多世代つなごりの市民による身体表現の開発と協働→ユイ（結）・パフォーマンス ②地域の物語を通じた新しい価値の発見とその記憶共有→レジェンドづくりにあるとし、上演後の観客アンケートからその評価を紹介した。



—第4日— 7月7日（木）

## ゼミ9 「ディスカッション：わがまちの音楽シーンを構想する」

講師： 中村 透

**討議** 伝統・ポップビート・クラシック音楽、あるいは演劇と音楽、舞踊と音楽のように、広い文脈に置かれた”おんがく“の多様な可能性を、どう地域市民を活性化し、社会的課題に適應させていくかのテーマで、4つのグループに分かれてディスカッションを行った。進行と記録は、ゼミ生によって行なわれた。各グループからはそれぞれ以下のプロジェクト案が提起され、それらについての意見交換を行った。

GR.A：楽器体験のワークショップとコンサートの組み合わせ企画

子どもと大人対象の楽器体験ワークショップを行い、その延長線にコンサートを行う。体験に根ざした動機づけで、コンサートを位置づける。

GR.B：室内楽と生け花実演のコラボレーション企画

生け花を嗜む人びとを対象に、かつ柔軟性のある場設定で生け花の実演と室内楽の共演を行う。

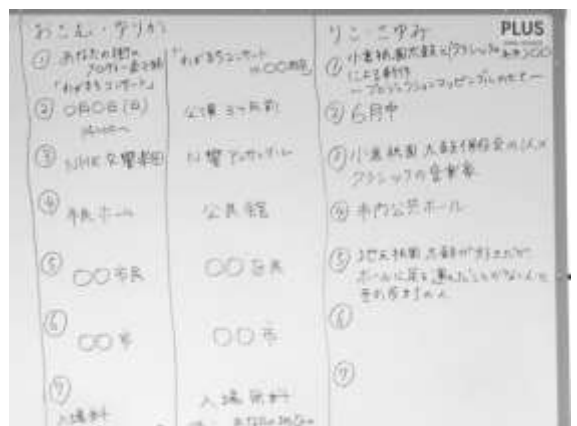
GR.C：わがまちコンサート企画

有名オーケストラ・メンバーと提携し、各町の愛唱歌を中心にアウトリーチを展開し、最終的にホールでのオーケストラ・コンサートへと市民を招き入れる。

GR.D：祇園太鼓とクラシックのコラボレーション企画

プロジェクト・マッピングの使用も視野にいれ、街角で太鼓芸とクラシック音楽のコラボレーションを行う。

各企画は、着想としては興味深いものであったが、実現に向かって幾つかの課題が提起されるにとどまった。



## ゼミ 10 「レクチャー：おんがく・ひと・コミュニティ」

講 師： 中村 透

鑑賞と演奏体験、ワークショップ、討議、発表を中心としたゼミ1～9を振り返りながら、総括的な講義を行った。地域社会の公共ホールにおける音楽プログラムのありかたについて、視点を「身の協働が拓く芸術行動の輪」とし、その考え方を提起した。

身の技・表現行動は、それ自体の“ことば”で人を揺さぶる、そして、その共有性、公開性において、本質的に公共性を有していること。また、芸術言語は、メタファー *metaphor*、つまり私たちの身体と外界とのメタファーという関係系によって成り立っていること、イメージ *Image* は過去に経験、擬似的に経験した事象を、現実には規制されないで浮かべる自由な心象であり、創造への踏み台であること。フロー *Flow* という心理は、表現をめざす身体動作と感覚とが一体化し、心身が意識を離れて作動する状態であること。これらが、プロ・アマを問わず芸術行動の基底にあることが、講師の実例的演奏を交えて論じられた。

最後に、ピーター・ブルックの「劇場がいかに美しくても生命力の爆発が起こらないこともある」が引用され、音楽芸術の送り手と受け手との間に、確かな相互作用を生じるようにすることが、公共ホールにおける音楽企画の要諦であると締めくくった。



### (3) 自主事業Ⅱ（舞台芸術）コース

#### ① 総 評

コーディネーター 大谷 煥

ステージラボ舞台芸術コースでは、コンテンポラリーダンスを中心に据えながら、これからの地域と劇場の在り方を考察することを目標とした。

1 日目。参加者が子供の頃、育った家の図を描いてもらい、それを身体で表現するというワークショップからスタート。言葉よりも動きを先行させることで、説明的にならない身体の記憶をダイレクトに表現してもらった。これからの4日間、共に過ごす参加者の相互理解のきっかけとなった。

次に NPO 法人 DANCEBOX の活動を紹介。公共ホールとは異なる公設置民営という運営形式の長所は、事業を企画するうえで自由度が多く、スタッフの意見が直接、事業に反映される点である。100 席という小ホールでこそできること、それは先駆的で実験的なプログラムを組むことで独自性を生み出せることである。地域社会と連携しながら、国際交流、人材育成、教育、福祉、アーティスト・イン・レジデンス等の事業を網の目のように絡ませあいながら展開することで、文化的コモンズの〈場〉となっている。それぞれのホールの地域特性、規模、運営形態等、異なるものの何かヒントになればよいと思った。

2 日目。コンテンポラリーダンスとは何か。その歴史的な背景と現状を乗越たかお氏に講義してもらった。コンテンポラリーダンスという言葉がようやく定着してきた近年であるが、それは明確に定義できるものではない。多種多様であり、常に変容し拡散していることが豊富な映像からうかがい知ることができた。

後半はセレノグラフィカによる「ダンスを遊ぼう！」ダン活など、小中学校等でアウトリーチとしてダンスのワークショップが行われることが急激に増加した。実際にいろんなワークを体験することで、自分のことや他人の普段は気づかない可能性を発見できたと思う。

3 日目。昨日に引き続きセレノグラフィカによる「ダンスを作ろう！」簡単な所作や関係性をつくることから、ダンスが生まれる。デュオからグループワークまで想像力を駆使しながら、身体で考えること、作品をつくる面白さを体感できたのではないかと。多様な階層の人たちに劇場に来てもらうためには、是非アウトリーチとしてのダンスワークショップや、さらに発展させて地域の人たちとコミュニティダンスをつくる劇場が出てくればと思う。

午後はマイクロバスで高知市内から約 40 分のいの町へ。いの町の文化資源は仁淀川という清流、植物学者牧野富太郎に発見命名された白花せんだん等の植物、そして土佐和紙。

このゼミでは、土佐和紙の紙漉き体験や、和紙の原料となる楮（こうぞ）の皮剥ぎ体験をした。この町の地域課題は全国的に起こっていることと同じ少子高齢化である。小中学校の廃校による統合化や、さらに児童生徒の取り合い等の問題を抱えている。子供たちが誇りに思える地域をつくり直すためには、地域の文化資源をアートを通じて読み直す必要がある。

講師の浜田あゆみ氏は和紙とパフォーミングアーツを融合して未来プロジェクトを立ち上げている。今回の共通プログラム、インドネシアのペーパームーン・パペット・シアターの公演でも土佐和紙が舞台美術として使用される。限られた地域資源をいかに有効に循環させて活用するか。そのようなことを学習できた時間であった。

4 日目。青森県八戸市の南郷アートプロジェクトのお話を中心に、過疎化する地域をアートによって再生する試みを学習する。八戸はえんぶりや神楽など伝統芸能が盛んな地域で、また南郷はジャズが地域に根付いている。それら地域の文化資源とコンテンポラリーダンス、舞踏をコラボレーションしたプログラムはこの地域だからこそ実現した内容になっている。

ここでも伝統的な地域資源を、ただ保存するだけではなく、新しいアートと組み合わせることで新しいアイデンティティを生み出している。全国の地方都市が画一化する中で地域独自の魅力を創出しているといえる。

最後は、あらかじめ宿題として提出していただいた「それぞれ仕事をされているホールが、5 年後どのようになっていけばよいのか。希望も含めて書いてください」をテキストにしながら、今回のステージラボで感じたことを各自に話していただいた。ホールを運営していくには多種多様な課題があるが、今回のステージラボの経験を活かし、想像力や創造力を駆使して、地域に愛されるホールを目指してほしい。

## —第1日— 7月4日（火）

ゼミ1 「ワークショップ形式の自己紹介/アートと地域社会を多様な角度からつなぐ。

NPO 法人 DANCEBOX の活動事例の紹介」

講師： 大谷 燠

まず前半は相互に理解を引き出すために、子供の頃育った家の図を描き、それを身体で表現してもらった。言葉を先行させず動きから行うことで、言葉の解釈・説明ではない表現を体験できたのかもしれない。その中のおもしろい動きを抽出しユニゾンをつくり、ダンスに仕立てた。参加者各自の人柄を想像力や創造力を通じてお互いに理解できた。

後半は DANCEBOX の活動事例は、劇場運営を核にしながら、国際交流や人材育成、教育、福祉、地域振興、AIR、地域連携等が相互に絡み合いながら、実施されていることを研修できたように思う。



## —第2日— 7月5日（水）

ゼミ2・3 「世界の最新ダンスと、「次のダンス」を生み出すツボを探る①②」

講師： 乗越 たかお、大谷 燠

近代舞踊の黎明期をイサドラ・ダンカン、ロイ・フラー、ルース＝セント・デニス等の活動を説明することから始め、ヨーロッパの流れをバレエ・リュスやドイツ表現主義舞踊、アメリカの流れをマーサ・グレアムの内面を表現する芸術的な舞踊から、マース・カニンガムの動きだけで表現するポスト・モダンダンスと展開。興味深いことはダンカンたちのショウダンスや即興（無意味）→グレアムたちの内面の表現（意味）→カニンガムの抽象的なダンス（無意味）を揺れ動きながら現代のダンスにつながってきたことでした。

では、コンテンポラリーダンスとは何か。それはカテゴライズできないものであり、答えがない。多種多様な表現があり、ダンスは直線的な進化ではなく、拡散し続ける状況にある。

振付の概念も従来のものを疑ってみる必要があり、現代の世界各国の新しい試みが映像で紹介された。近年ではコンセプチュアルな傾向から、強いフィジカルと高いアート性を有したコンテンポラリーサーカスが注目されている。

また上演形態としては、カンパニーの公演からプロジェクト志向が増加している。より自由に作品制作



に取り組める環境も、フェスティバルが増加したことの背景もあり、国をまたいだ共同制作作品も増加している。

参加者は豊富な映像資料で現代のダンスの状況を学習できたと思う。ダンス活性化事業等でコンテンポラリーダンスに触れる機会は増えてきましたが、国内だけでなく世界中で起こっている新しいダンスの潮流を感覚することで、これからの事業に活かしてほしいと思う。

#### ゼミ4 「実験その1 ダンスで遊ぼう！」

講師： セレノグラフィカ（隅地茉歩/阿比留修一）、大谷 燠

ダンスといった時に、一般的にどのようなイメージをもつだろうか。バレエ、ヒップホップ、よさこいソーラン？

このゼミでは、こんな動きもダンスになるんだということを、ダンス遊びを通じて体験した。名前でバンザイは輪になって、名前や今朝食べたもの、好きな寿司ネタなどをバンザイしながら順番に言っていました。お尻歩きで、身体をほぐし、ナビゲーターの合図や音楽でストップ&ゴーを繰り返し、全体のスペースを締めていき空間とお互いの身体の感覚を確認するダンス。また、向かい合ってお互いの人差し指を追いかけていくペアワーク。

お互いの身体の一部を触ってすり抜け、また触り返すを繰り返していくワーク。その後、2グループに分かれてショーイングをしました。

最後に全員でセレノグラフィカのオリジナルの振付を全員で踊った。





ゼミ5 「実験その2ダンスを作ろう！」

講師： セレノグラフィカ（隅地茉歩/阿比留修一）、大谷 燠

好きな動物名をキックしながら言ったり、スローや後ろ歩きなどを合図に従ってみんなで歩くウォーミングアップ。次に自分の名前を手拍子、足拍子と変化させ、しだいに身体全体で表現する。男女4ペアをつくりショーイング。自然にダンスが生まれてくる。

最後にグループでのクリエイション。グループごとに音楽を選曲し、みんなで創作をおこなった。ガイドダンス10分、クリエイション15分と短い時間のなかで、それぞれの身体から生き活きとしたダンスが生まれた。



ゼミ6 「舞台芸術は消えゆく伝統を救えるのか？」

講師： 浜田 あゆみ、大谷 燠



高知市内から車で約40分の土佐和紙の町「いの町」でのフィールドワーク。

奇跡の清流といわれる仁淀川を一望できるレストランで昼食。その後、いの町立神谷（このたに）小中学校へ。この地域も少子高齢化が進み全校の児童生徒数は32名（小19、中13）。地域住民の協力を得ながら、地域資源を活かした魅力のある学校づくりの取り組みのお話を聞く。

土佐和紙工芸村では紙漉き体験。和紙に草花を挿したポストカードをつくる。その後、柳野で土佐和紙の原料である楮（こうぞ）の皮剥ぎ体験。楮の生物学的な特徴や、楮畑の減少等、現在の課題を高知大学の田中先生からお聞きする。

それから浜田あゆみさんの実家である鹿敷製紙株式会社を訪問し、和紙ができる工程を見学する。また展示室では、和紙を使った様々な製品や作品を見て、和紙の多様な可能性を学習する。



### ゼミ7 「地域とダンスが会うアートプロジェクト」

講師： 大澤 苑美、大谷 燠

人口約23万人の青森県八戸市でのアートプロジェクトを2011年開館した八戸ポータルミュージアムはっち、同年スタートした南郷アートプロジェクトを中心に紹介してもらう。

八戸市は人口が減少していく今、誇りある地域を維持し、発展させていくためにアートのまちづくり取り組むことの必要性を理念として掲げている。

南郷アートプロジェクトは平成17年に八戸市と合併した人口約5,500人の過疎高齢化地域。伝統的な民俗芸能やジャズが盛んな地域で、例えばCo.山田うん×島守神楽保存会、八戸えんぶり×大駱駝艦、森下真樹とダンスとジャズのパレードなど、これらの文化資源とダンスを融合させたこの地域ならではのプログラムをつくり上げた。

また、定住するアーティストが出現し、アートプロジェクトに取り組んでいることにも注目したい。



### ゼミ8 「ゼミ全体の振り返り」

講師： 大谷 燠

事前課題として提出していただいた「それぞれ仕事をされているホールが、5年後どのような状態になればいいのか。希望も含めて書いてください」ということを踏まえて、今回のステージラボの体験を通じて感じたこと、今後の活動に活かしていきたいと思うことなどを参加者全員に話していただきました。地域やホールの規模に差異はあるものの、共通の課題や希望もみえてきた。

地方自治体との関係の難しさ、市民にとって敷居が高い、観客の高齢化、施設の老朽化等の課題を抱えているホールも多い。5年後の理想のかたちで、一番多かったのが新しい広場として多様な人が出会い、世代を越えてコミュニケーションできるホールでありたいという意見。マイノリティが参加でき、排除ではなく共存できる地域社会のプラットフォームでありたいという意見も印象に残った。

ゼミではこの町でのフィールドワークが地域資源を現代に活用し、守るだけでなく新しい価値観を生み出す可能性に触れることができた。



### 3 共通プログラム

#### 『ペーパームーン・パペット・シアター 新作人形劇「和紙を透かして」(インドネシア)』 ー共同制作体験ー

(1) 日時・会場

7月5日(水) 17:30~20:30 ・ 高知県立美術館 ホール

(2) 講師

マリア・トリ・スリスチャニ、イワン・エフェンディ (ペーパームーン・パペット・シアター)

(3) 出演者

ホール入門コース、音楽コース、舞台芸術コース参加者のみなさん

(4) 概要及び目的

高知県立美術館では、平成23年度よりアーティスト・イン・レジデンス事業を行っており海外からアーティストが一定期間滞在し、作品の発表を行っている。今回の共通プログラムでは、平成27年度にアーティスト・イン・レジデンスで高知に約1か月滞在し地元の素材の和紙を使用し、また地元のアーティストと協働で「かくれんぼ」という作品を発表したインドネシアのペーパームーン・パペット・シアターのイワン・エフェンディとマリア・トリ・スリスチャニの2人が平成29年度も「和紙を透かして」という公演の為にレジデンスを行っているので、彼らによる紙を使ったワークショップを行うことにした。このワークショップを行う事で、レジデンス事業を行っている公共施設の事例の紹介とワークショップを通じ、地域の素材を使ってアーティストと協働することにより、地域に何をもちたることが出来るのかを探ることを目的とする。



#### (5) 内容

最初にペーパームーン・パペット・シアターのこれまでの活動や、彼らが2年毎に行っているフェスティバルの紹介をした。その後マリアの先導で、参加者が円になり、自分の名前やニックネームを言いながら動きを加え、ほかの参加者が同じようにその動きをまねるといった運動をして、空気を解きほぐした。

次に素材を動かすことの実演。一人が一枚の新聞紙を使って蛇を作り、音を出しながら少しずつ動かした。「その時その生き物はどのように呼吸しているか」、「睡眠の後どうやって目を覚ますのか」など、「パペットを操るといふ事は、それ自体が生きていると信じて見せる」という、パペット操作の基本を体験した。

いよいよ創作が始まり、「幸福」「悲しさ」「怒り」「恐れ」といったテーマを与えられ、4つのグループに分かれた。各グループが与えられたテーマを表現できる作品を、相談しながら作っていき、そして出来上がった作品を発表。お互いに見せ合う場となった。

最後に創作過程の感想や講師への質疑応答を全員で行った。「人数が増えるとパペットの細かい動きが出来る」「パペットの魅力は現実に無い物を作り出すことが出来る」「最初のアイデアから作品を作り始めるが、それとは違ったものになる」など、彼らがパペットのパフォーマンスを何故行っているのかといった話にも掘り下げられていき、国は違っても創作への思いは同じであるといったものが感じられたゼミとなった。

## Ⅲ ステージラボ

### 高知セッション

■2月20日(火) 第1日

【研修スケジュール】

	ホール入門コース  コーディネーター 草加 叔也 有限会社空間創造研究所 代表	自主事業(音楽)コース  コーディネーター 児玉 真 一般財団法人地域創造 プロデューサー
主会場	小ホール	6F事務室
09:00		
10:00		
11:00		
12:00		
13:00		
14:00	13:30 受付	
15:00	14:00 開講式・オリエンテーション 会場:小ホール	
16:00	15:00 ゼミ1「所属する劇場・音楽堂と自分の仕事を紹介」 講師:草加 叔也 会場:小ホール	15:00 ゼミ1「自己紹介と共有の時間」 講師:児玉 真 会場:6F事務室
17:00		
18:00	17:30 休憩	17:30 休憩
19:00	18:00 18:00~19:30 全体交流会 会場:レセプションルーム	
20:00	19:30	
21:00		

■2月21日(水) 第2日

【研修スケジュール】

	<p>ホール入門コース</p> <p>コーディネーター 草加 叔也 有限会社空間創造研究所 代表</p>	<p>自主事業(音楽)コース</p> <p>コーディネーター 児玉 真 一般財団法人地域創造 プロデューサー</p>
主会場	6F事務室	レセプションルーム
10:00		
11:00	<p>10:00</p> <p>ゼミ2「先進事例施設から学ぶ①:富士見市民会館キラリ☆ふじみ」 講師:松井 憲太郎(富士見市民会館キラリ☆ふじみ 館長) 会場:6F事務室</p>	<p>10:00</p> <p>ゼミ2「和楽器と遊ぶ楽しさを体験する」 講師:中 彩香能(箏・三味線奏者)、 五十川 真子(箏・三味線奏者) 会場:レセプションルーム</p>
12:00	<p>12:00</p> <p>昼食・休憩</p>	<p>12:00</p> <p>昼食・休憩</p>
13:00	<p>13:00</p> <p>ゼミ3「身体表現(ダンス)から学ぶ」 講師:セレノグラフィカ(隅地 菜歩/阿比留 修一) 会場:小ホール</p>	<p>13:00</p> <p>ゼミ3「邦楽器奏者の生き方と コミュニティとの関係を探る質問コーナー」 講師:中 彩香能、五十川 真子 会場:レセプションルーム</p>
14:00		<p>14:00</p> <p>休憩</p>
15:00		<p>14:15</p> <p>ゼミ4「コミュニティ・エンゲージメントを考える」 講師:児玉 真 会場:レセプションルーム</p>
16:00	<p>16:00</p> <p>休憩</p>	<p>15:30</p> <p>休憩</p>
17:00	<p>16:15</p> <p>ゼミ4「劇場・音楽堂が担う役割を学ぶ①」 講師:草加 叔也 会場:6F事務室</p>	<p>15:45</p> <p>ゼミ5「いわきアリオスのコミュニティ事業 ～アリオスの過疎地へのプログラム」 講師:矢吹 修一(いわき芸術文化交流館アリオス)、児玉 真 会場:レセプションルーム</p>
	<p>17:15</p> <p>休憩</p>	<p>17:15</p> <p>休憩</p>
18:00	<p>17:30</p> <p>17:30～19:30 共通プログラム グループディスカッション「インクルージョン事業について考える」 ～横浜みなとみらいホールの事例を交えて～ 会場:小ホールほか</p>	
19:00		
20:00	<p>19:30</p>	
21:00		

■2月22日(木) 第3日

【研修スケジュール】

	<p>ホール入門コース</p> <p>コーディネーター 草加 叔也 有限会社空間創造研究所 代表</p>	<p>自主事業(音楽)コース</p> <p>コーディネーター 児玉 真 一般財団法人地域創造 プロデューサー</p>
主会場	6F事務室	レセプションルーム
10:00		
11:00	<p>10:00</p> <p>ゼミ5「先進事例施設から学ぶ②:パルコ劇場」 講師:佐藤 玄(パルコエンタテインメント事業部 劇場担当部長) 会場:6F事務室</p>	<p>10:00</p> <p>ゼミ6「小さな区民ホールがそのまちにできること (灘区民ホールの冒険)」 講師:衣川 絵里子(神戸市灘区民ホール、(株)Evenif)、児玉 真 会場:レセプションルーム</p>
12:00	<p>12:00</p> <p>昼食・休憩</p>	<p>11:30</p> <p>昼食・休憩</p>
13:00		
14:00	<p>13:00</p> <p>ゼミ6「劇場・音楽堂等の職員として、 知っておくべき『表方の基礎』を学ぶ」 講師:星乃 もと子(シアターマネージメントプラン 代表取締役) 会場:6F事務室、小ホール</p>	<p>12:30</p> <p>ゼミ7「新たな劇場がまちに。 「育成」を理念に掲げたサントミュージーゼの試み」 講師:田澤 拓朗(上田市交流文化芸術センター サントミュージーゼ)、 児玉 真 会場:レセプションルーム</p>
15:00		
16:00	<p>16:00</p> <p>休憩</p>	<p>14:00</p> <p>休憩</p>
17:00	<p>16:15</p> <p>ゼミ7「劇場・音楽堂が担う役割を学ぶ②」 講師:草加 叔也 会場:6F事務室</p>	<p>14:15</p> <p>ゼミ8「『おんぱく』とはなにか? ~長久手の話を聞く」 講師:生田 創(長久手市文化の家)、児玉 真 会場:レセプションルーム</p>
18:00	<p>17:15</p> <p>休憩</p>	<p>15:45</p> <p>休憩</p>
19:00	<p>17:30</p> <p>ゼミ8「先進事例施設から学ぶ③:北九州芸術劇場」 講師:龍 亜希(北九州芸術劇場 プロデューサー)、 草加 叔也 会場:6F事務室</p>	<p>16:00</p> <p>ゼミ9「私の街のコミュニティと音楽家で作る3カ年計画 (グループワーク)」 講師:矢吹 修一、衣川 絵里子、田澤 拓朗、生田 創、 児玉 真 会場:レセプションルーム</p>
20:00	<p>19:30</p>	<p>19:30</p>
21:00		

■2月23日(金) 第4日

【研修スケジュール】

	<p>ホール入門コース</p> <p>コーディネーター 草加 叔也 有限会社空間創造研究所 代表</p>	<p>自主事業(音楽)コース</p> <p>コーディネーター 児玉 真 一般財団法人地域創造 プロデューサー</p>
主会場	6F事務室	レセプションルーム
09:00		
10:00	<p>09:30</p> <p>ゼミ9「研修のまとめと発表」 講師:草加 叔也 会場:6F事務室</p>	<p>09:30</p> <p>ゼミ10「グループワークの続きと発表。 ホールからの発信から協働からの発進へ」 講師:児玉 真 会場:レセプションルーム</p>
11:00		
12:00	<p>11:30</p> <p>アンケート記入・休憩・移動</p>	<p>11:30</p> <p>アンケート記入・休憩・移動</p>
13:00	<p>12:00</p> <p>修了式 会場:レセプションルーム</p>	
14:00	13:00	13:00
15:00		
16:00		
17:00		
18:00		
19:00		
20:00		
21:00		



## 2 各コースについて

### (1) ホール入門コース

#### ① 総 評

コーディネーター 草加 叔也

ステージラボ横浜セッション入門コース参加者の皆さんへ

最初に、ステージラボ横浜セッション入門コースに全国からたくさんの参加申込みをいただいたことに感謝します。しかし、会場やコーディネーターの能力から全ての皆さんを受入れることができませんでしたこと残念に思います。もし、状況が許すのであれば、近い時期に再度参加の意思を示していただけますことを期待しています。

また、今回参加をいただいた22名の皆さん、お疲れさまでした。皆さんがこの報告書を目にするのは、ラボが終わってから数カ月が過ぎたころだと思います。たった四日間でしたが皆さんの記憶に残る時間になってくれていれぱうれしく思います。

入門コースの参加者は、劇場・音楽堂がこれから開館する方々や劇場・音楽堂の仕事にはついたものの日が浅いという方々です。そのため横浜に来るまでの日常では、劇場・音楽堂の仕事の一端を担ってはいるものの、その日常の仕事がどのように役に立っているのかを実感できないという方も少なくなかったのではないのでしょうか。この四日間では、皆さんが立っている劇場・音楽堂という職場がどのような施設で、どんな使命 (mission) を与えられ、そのために何をやらなければならないのかということを改めて概観していただくことが入門コースの重要な役割と考えてきました。できればそのことを理屈として理解していただくこと以上に、感じていただくこと、味わっていただくことを期待していました。さて、どうだったのでしょうか。もし、少しでもそのことが伝わっているようであれば幸いです。

また、その目的を果たすために、この四日間に沢山の講師の皆さんにお手伝いをいただきました。直接、お話をいただいた方だけでなく、あの舞台上でマイクやスライドをセットしていただいた皆さん、もぎり実習のためにチケットを印刷してくれた方々、コースの準備から会場の設営、番外ゼミの会場の確保まで、数多くの方々に支えられて全てのプログラムを無事終えることができました。改めてお礼を申し上げます。

そして最も大切なのは、今、職場に戻られた今皆さんが、ステージラボに参加する以前と今では少し違った視野で自分の仕事と周りのことを俯瞰できるようになっているかどうかです。もちろん、皆さんがそれぞれの劇場・音楽堂の全てが理解できるということまでは期待していません。残念ながら、たった四日間で理解できるほど簡単な仕事でもありません。劇場・音楽堂が何のためにコンサートや芝居の公演を企画し、実施しているのか。文化や芸術の魅力を市民に伝えることは、なぜ必要なのか。そして、皆さん一人ひとりがそのためにどのように役に立っているのかということを改めて感じ、考えていただけるきっかけができたかどうかということです。

身体を動かすこと、音楽を奏でること、伝統芸能の息吹を伝えること。その一つ一つをどのように育て、繋げていくかによって皆さんが住む街の魅力が生まれ、心豊かな地域社会を築くきっかけとなり、活力ある地域社会を実現するための一歩にもなります。皆さんの仕事は、正にそんなに魅力的な仕事であるとともに、地域社会にとって大変に重要な価値ある仕事だということに気付いてくれましたか。子どもたちには、その街に暮らしたという記憶をつくり、高齢者には安心した老後を楽しく過ごす憩いと交流の場を提供していく。もちろん、その街を支える多くの市民には、心の豊かさを実感できる時間とそこに住み続ける魅力を伝えていくことが重要です。

そのために文化や芸術を活かしていく、使っていくことが劇場・音楽堂には求められていて、そのファシリテータとしての役割が皆さんには課せられているのです。改めて、自分の足元から視野を広げてみてください。街を豊かにし、魅力的な地域づくりに貢献できているでしょうか。もし、少し物足りないようであれば、皆さんの仕事はさらに重要になります。しっかりと目を見開いて、廻りを眺めてください。そして少し前のめりでもよいから一歩前に進んでみてください。その一歩が何かを変えるきっかけになります。ただ、劇場・音楽堂の仕事は一人ではできません。その一歩の価値と必要性をしっかりと理解させ、共有していくことも皆さんの大切な仕事です。

さて、ステージラボ横浜セッション入門コースは、あの四日間だけで終わったわけではありません。今後いつか皆さんに会うときにその後の報告を伺う「その後ラボ」を随時、各地で開催したいと考えています。是非、その時には皆さんのその後の成果や成長について教えてください。また、疲れたり悩んだりしたときには、22人の仲間を頼ってみてください。きっと助けてくれたり、相談に乗ってくれると思います。是非連絡をしてみてください。もちろん、私も役に立てることがあればいつでも喜んで相談に乗りますので、その日まで「あの四日間」に感じたこと、考えたことをしっかりと思い出して、足元から見つめなおしてみてください。

参加された22人皆にとって楽しい時間であったことを願います。また、皆さんのコーディネーターを務めさせていただけたことにも感謝を申し上げます。ありがとう！素敵な四日間でした。また、会えることを楽しみにしています。

## ②ゼミ記録

—第1日— 2月20日(火)

### ゼミ1 「所属する劇場・音楽堂と自分の仕事を紹介」

講師： 草加 叔也

小ホールで、参加者一人ずつ用意していただいた2枚のスライドを手掛かりに、4分間で自己紹介をしていただきました。目的は、もちろん自己紹介ですが、これまで多くの名だたるプロの演奏家が公演で使ってきた舞台に立ち、参加者一人ずつスポットライトの中で自己紹介をすることを通して「緊張感」も味わっていただきました。

最初のゼミで、参加者のプロフィールと所属先、そして各館が抱える課題を共有することができました。きっとこれからは、どんな舞台でも一人でしっかりと話ができる度胸も養っていただけたことと思います。



## ゼミ2 「先進事例施設から学ぶ①：富士見市民会館キラリ☆ふじみ」

講師： 松井 憲太郎

富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ館長の松井憲太郎さんに、松井さんが自ら劇場と向き合う姿勢についてお話をいただきました。

いつ伺っても松井さんの向き合い方は直球勝負です。富士見市は、どのような歴史的変遷を経て現在のような街になってきたのかを古代の歴史から調べ、そんな地域で今、公立劇場が果たすべき役割を考え、実践する。結果、芸術性の高い活動から地域農業の祝祭まで、今、キラリ☆ふじみが果たすべきと考えている役割について伺いました。さて、松井さんの直球をしっかりと受け止められたでしょうか。



## ゼミ3 「身体表現（ダンス）から学ぶ」

講師： セレノグラフィカ（隅地 茉歩／阿比留 修一）

セレノグラフィカの隅地茉歩さん、阿比留修一さんから、身体表現がアートとして昇華していくことでダンスという舞台芸術にたどり着く流れと、身体を動かすことで表現できること、感じることの可能性や楽しさについても教えていただきました。

実技では、参加者全員がやはり小ホールの中庭の舞台と客席を使って、ただ歩くことから、互いに触れ合うこと、皆が群れることなどといった動きをつなげることで、いつの間にか誰でもが何かを表現する能力を備えているらしいことを自覚していきました。それは「初めての無重力月面体験」に近感覚で、セレノグラフィカのお二人だからこそできる成果かもしれません。



#### ゼミ4 「劇場・音楽堂が担う役割を学ぶ①」

講師： 草加 叔也

ゼミ4では、今、劇場・音楽堂で働く職員が少なくとも知っておかなければならない法律の一つである「文化芸術基本法」について、学んでいただきました。

「文化芸術基本法」は、昨年「文化芸術振興基本法」から改正をされたことと今後文化政策の立案に大きな影響を及ぼす可能性が考えられます。特に法律改正の趣旨である福祉、教育、国際交流、まちづくり、観光などといった政策との連携、地方文化芸術基本計画（努力義務）への取組、地方文化芸術推進会議の実施などに注目をしていく必要があります。



—第3日— 2月22日（木）

#### ゼミ5 「先進事例施設から学ぶ②：パルコ劇場」

講師： 佐藤 玄

パルコ劇場は、東京渋谷にある民間劇場ですが、そこで制作される演劇等の作品は、広く全国の公立劇場でも毎年数多くが上演されています。

そこでその作品を制作しているパルコエンタテインメント事業部 劇場担当部長の佐藤玄さんにお越しいただき、パルコ劇場が毎年どのような演劇作品を何本程度制作し、パルコ劇場で公演された後、どのような地域の劇場で上演をされてきているのか、その流通等についても詳しく教えていただきました。その上で、発信側のパルコ劇場とそれを受け入れる地域の劇場がどのような関係を築き、また受け入れるためにはどのような条件を整えていくことが望まれているのかということもお話いただきました。



## ゼミ6 「劇場・音楽堂等の職員として、知っておくべき『表方の基礎』を学ぶ」

講師： 星乃 もと子

劇場がどんなに素晴らしい作品を上演したとしても、観客が劇場にいる時間を楽しんで過ごしていただく諸条件を整える必要があります。そのお客様を迎える表方（FOH）の役割といくつかの実務について、実戦を交えてシアターマネジメントプラン 代表取締役の星乃もと子さんに指導をいただきました。劇場・音楽堂職員に求められるもの、フロントスタッフの役割、そして実践と短い時間でたくさんの情報を詰め込んでいただきました。特に「もぎり」と「客席案内」の実技では、まだまだおぼつかない立ち振る舞いが目立ちましたが、きっと参加された 22 施設のお客様をお迎えするホスピタリティは、今後格段に向上していることと思います。



## ゼミ7 「劇場・音楽堂が担う役割を学ぶ②」

講師： 草加 叔也

ゼミ4に続き、劇場・音楽堂で働く職員が少なくとも知っておかなければならない法律のもう一つ「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」について学びました。この法律は、「文化芸術基本法（文化芸術振興基本法）」を上位規範として整備をされた法律で、（通称）劇場法と呼ばれるように、劇場・音楽堂等の定義や事業などを定めた個別法（図書館法や博物館法など）として認知をされています。この法律の前文に記されているように「心豊かな国民生活及び活力ある地域社会の実現並びに国際社会の調和ある発展を期す」ことがこの法律制定の目的であることを改めて確認しました。

## ゼミ8 「先進事例施設から学ぶ③：北九州芸術劇場」

講師： 龍 亜希、草加 叔也

先進事例施設から学ぶゼミの最後に北九州芸術劇場舞台事業課プロデューサーの龍亜希さんにご登壇をいただきました。

龍さんは、新人の頃このステージラボ入門コースを受講した経験を持つ方で、それから十余年。ステージラボの効果の有無は別にしても、ステージラボ入門コース卒業生を講師で迎えられることは法外の喜びです。龍さんには、北九州芸術劇場の成長と事業の可能性の拡大について、実際の事業を通して紹介をしていただきました。決して全てが成功例でもなく、思い通りのことが最初から実現できていくわけではない。スタッフが成長することで劇場が育っていく。そんな積み重ねが北九州劇場を培ってきていることを教えていただきました。



## ゼミ9 「研修のまとめと発表」

講師： 草加 叔也

最終日にこれまでのゼミを通して学んだことを3つのグループに分かれて発表していただきました。

課題は、ゼミ3「身体表現（ダンス）から学ぶ」で体験した身体表現の魅力を事業として取り上げていくための方策を考えるということにしました。

最初に事業として伝えるべきテーマを各班3つの言葉で示していただき、そのテーマを実現する具体的方策を提案していただきました。その実現性や具体性以上に参加していただいた22人が、身体表現ということを通して感じたこと、考えてくれたことが形にできたように思います。是非、このゼミで考えたように、実施する事業や活動についてどんな作品や公演であろうとも、しっかりと取組む意志を持つこと、その意思や意図を市民にもしっかりと伝える工夫を施すこと。

その積み重ねが、きっと明日の劇場を築いていくんだということを信じてください。



## (2) 自主事業 (音楽) コース

### ① 総 評

コーディネーター 児玉 真

以前にも書いたことだが、公共ホールの役割とされるものは、ここ何十年か拡大し続けてきたように思う。それは第二次大戦後の集会施設が必要、というところから始まって、最近ではホールは明確な意思を持った施設としての人格のようなものが与えられているという話になってきた。それは、創造と直接に関わることであったり、啓発普及であったり、ホールの外に出ることによる社会の諸課題への意図的なアプローチであったりする、という認識を持って居る。そのようになってきたときに一番注意深くならなくてはいけないことは、真摯にアートに向かうアーティストへの尊敬の意識であって、そうでないと創造行為であるアートは(というかアーティストの人格や能力は)受け取り手の中で蓄積されるものではなく、消費されるものになってしまうという本質的な矛盾を孕むことになりそうで怖い。ただ、アートを扱う職分にある私たちは、常にその矛盾をエネルギーとしていくことが必要であり(敢えて求められて居る、とは書かない)、そのことを楽しいことだと思ふことは大事なメンタリティだと思う。

地域創造が今までと違った発想での訪問コンサート(コンサートと簡単にいうのは憚られるのでアーティスト派遣の一つの方法というのが正しいだろう)をアウトリーチと名付けてスタートさせてから今年ちょうど 20 年になるが、アウトリーチに関わる課題はやればやるほど出て来る、という感じである。それは多分アートに関わる活動が個性を重視し、多様性を求めていること(要は人と違うことはいいことだよ、という基本)と関係がある訳だけれど、だから常に色々考えておくことが重要だろう。

さて、今回のステージラボ横浜セッションでは(というか、でも、に近い)そのような背景のもとで、ホールはアーティストと一緒にどんなミッションを作り具体化していけるのか、ということ、せつかく仲間がいる場所で考えていこう、としたものである。と書くと、大仰なもののように思えるかもしれないが、課題は身近かつ小さな生活の中のあちこちにあって、それを考えられると良いなあ、思っていた。その方が仲間と共有しやすいのである。それがうまくいったかどうかはまだ分からないが。

ということで、音楽分野の活動で、コミュニティを明確に意識しつつ、そことに人間関係を含めたコミュニケーションを大事にしていると思える全国のホールの中から 4 つの会館で現場監督的に活動している中堅の方に話を聞かせてもらい、かつ彼らにグループワークのファシリテーター役も担ってもらおうという、若干欲張りなプログラムになった。多様な事業の考え方の可能性があるという事と、違った個性を持った似たような仕事をしている人をしり、それをまとめていくのは、雑誌で言えば書き手ではなく、編集者的な作業で、その事の面白さを感じてもらえただろうか？

今回、参加者の中にはアウトリーチについての具体的悩みを持った人もいたけれども、それに丁寧に応えるという時間があんまり取れなかったことは若干心残りでもある。でも、個々の具体的な悩みはいつでも相談に乗れるとも言えるので、この仲間を大事にしていって欲しいと思う。

最後に、忙しい中協力くださった、上田の田澤さん、いわきの矢吹さん、長久手の生田さん、灘区の衣川さんには感謝の言葉しかない。後で気がついたのだが、3 館は直営館の担当、衣川さんは民間の指定管理だが NPO 的な組織で活動している方である。これに何か深い意味はあるのだろうか？

## ② ゼミ記録

－第1日－ 2月20日（火）

### ゼミ1 「自己紹介と共有の時間」

講師： 児玉 真

この時間は受講生同士が心を自由にするためのアイスブレイクの時間であるとともに、言葉での話に音楽がもたらす効果を感じてもらいたいと考えて、いくつかのゲーム的なことも行う時間と考えていたが、時間的な制約があった事と、もう一つは今回の受講生が全般に若く、また、ホールでのキャリアも長くない人が多かったため、公共ホールを考えるときのベースとなる公共ホールの戦後史の概観と、特に事業に関する考え方に触れる講義の時間を若干用意した。



－第2日－ 2月21日（水）

### ゼミ2 「和楽器と遊ぶ楽しさを体験する」

講師： 中 彩香能、五十川 真子

邦楽の事業は地域創造でも8年の歴史があるが彼らのアウトリーチはなかなか紹介する機会がないこともあり、今回は三味線の中彩香能さんと五十川真子さんに三味線音楽についてアウトリーチの手法で体験をできるプログラムをお願いした。

基本的に昨年いわき市で行ったアウトリーチに準じた内容。同時に、中さんが洗足学園大学で行なっている音楽ワークショップの授業が珍しく、かつ楽しかった経験があることから、歌うワークショップの一部をお願いした





### ゼミ3 「邦楽器奏者の生き方とコミュニティとの関係を探る質問コーナー」

講師： 中 彩香能、五十川 真子

邦楽演奏家の日常は洋楽演奏家以上に意外と知る機会がないので、彼らの音楽観や生活観を自由に質問できるコーナーとしてこの時間を作った。

午前中の体験から、楽器のことなどに興味が集まりすぎたきらいはあるが、普通の生活人としてのお二人の姿をわかってもらえただろうか。この視点が、コミュニティの中で企画をしていく上で重要な要素になるはず。



### ゼミ4 「コミュニティ・エンゲージメントを考える」

講師： 児玉 真

宿題でみんなにお願いした「わたしのまちの」のカードは、使って一人一人話していくと大変な時間がかかってしまうため、みんなが書いてきたことを踏まえながら、今までの20年間ほどで各地で行われたアウトリーチ活動の中で地域コミュニティと行ってきた様々な内容の写真を整理しながら説明し聞いていただいた。

思えば、おんかつ実施の後に各市町村が独自で考えたプログラムの中に演奏家のさまざまな可能性が芽付いていることに気がつく時間だった。例えば埼玉県障害者アートフェスティバルでのアウトリーチ、長崎ブリックホールが行った大学との連携や、合併市町村の市民と作るコンサートなど。単純にアウトリーチサービスを越えた活動になるかもしれない。



### ゼミ5 「いわきアリオスのコミュニティ事業～アリオスの過疎地へのプログラム」

講師： 矢吹 修一、児玉 真

いわきアリオスの矢吹修一さんに、いわきがホールオープン以来行ってきた「お出かけアリオス」の活動を整理して総覧するとともに、今ピアニストの田村緑さんと3年計画で行なっている「三和プロジェクト」についてお話しいただいた。

いわきの活動の特徴である二つの活動、学校を中心とした施設型アウトリーチとコミュニティに深く関わっていくプログラム(スタッフにとってこっちの方が大変だろう)の整理は分かりやすかった。その上で、まだまだ悩ましい問題も隠れているはずで、今後の活動について期待したいとおもえた。



### ゼミ6 「小さな区民ホールがそのまちにできること（灘区民ホールの冒険）」

講師： 衣川 絵里子、児玉 真

神戸の灘区民ホールの衣川絵里子さんに、小さな区民ホールで、予算もほとんどない状態の中、非常に活発かつ意欲的な活動がどのように行えたのか、また近所の商店街との連携でホールが何を担えたのかについて発表していただいた。

小さな民間の指定管理者としてここまでやってしまっている場所はそれほどないだろうと思う。個人の力の発揮が活かされた例。街づくりのプロジェクトなどではよくある手法と言えなくもないがホールでは難しいはずで、衣川さんという人の才覚を信じて自由に(でもないか?)やらせてくれた上司の度量もあるのかも。



### ゼミ7 「新たな劇場がまちに。「育成」を理念に掲げたサントミュージゼの試み」

講師： 田澤 拓朗、児玉 真

長野県の上田市に3年前にできたサントミュージゼ。県内第3の都市であるが、公立会館の活動がきちんと位置付けられていなかった町である。そこにできたホールならではの事業の役割として位置付けられたアーティストとの連携を作る事業。

アウトリーチと公民館とホールの連携的な組立としての音楽プログラム(これは思ったよりうまくいくとは限らないのである)の考え方をどのように実現してきたかを、現場監督の役割を担ってきた田澤拓朗さんに話していただいた。



## ゼミ8 「「おんぱく」とはなにか？～長久手の話を聞く」

講師： 生田 創、児玉 真

4人目の活動紹介は長久手文化の家の生田創さん。名古屋近郊の文化的都市。市内に芸術大学もあり人口も増えている恵まれた条件ではあるが、住民や近郊に住むアーティストをどのように巻き込み協力体制を作っていたかを、クラシック音楽中心のお祭りのイベント「オンパク」を例に紹介していただいた。

こういう企画は夕方の時間が寂しくなることがあるのだが、私が見にいったとき最後の盛り上がり素晴らしかった。市民やアーティストのアイデアを引き出し、利用し尽くす感じが新しいプロデューススタイルだと思う。



## ゼミ9 「私の街のコミュニティと音楽家で作る3カ年計画(グループワーク)」

講師： 矢吹 修一、衣川 絵里子、田澤 拓朗、生田 創、児玉 真

4つのグループに分け、それぞれに5-8で話していただいた方にファシリテート役に入って頂いて「地域の財産と音楽家による新しい3年プロジェクト」を考えてもらうグループワーク。

漠然としたテーマでとっつきにくかったかもしれない。ただ、話をする際の4つのポイントを提示した。

- 1、市民の話をまず受け入れる。
- 2、ルールはできるだけ無くす。
- 3、問題は一緒に考える(アーティストへの敬意とコミュニティの人たちへの敬意を大切に)。
- 4、常に新しい視点を提案する。

それぞれ、楽しく議論してくれたものと思う。

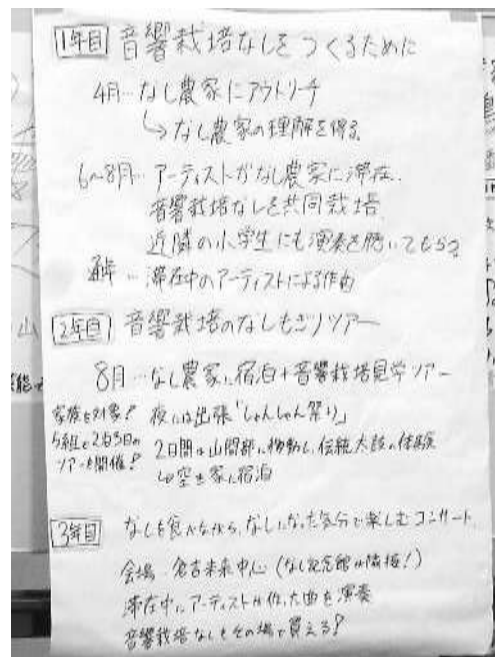
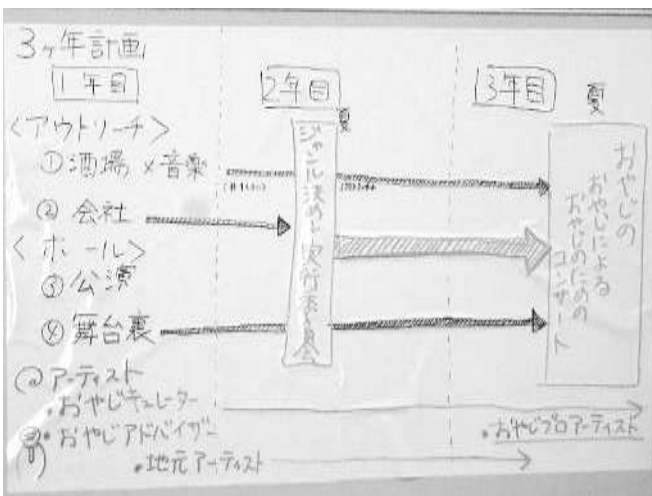
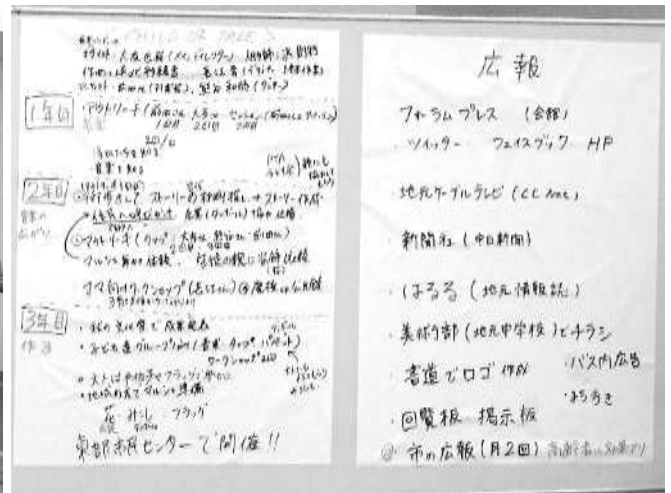


ゼミ 10 「グループワークの続きと発表。ホールからの発信から協働からの発進へ」

講師： 児玉 真

グループワークの仕上げ、発表の準備をし、最後にそれぞれ発表をしていただいた。

それぞれユニークな発想のプランが発表になった。同じテーマを議論するというのは、ホールにいると意外とできないことだと思う。今回は発表までに時間をとってしまったために時間が足りなくなり、ディベートの討議までは至れなかった。そのためまとめのコメントは修了式後に短く行った。



### 3 共通プログラム

グループディスカッション「インクルージョン事業について考える」  
～横浜みなとみらいホールの事例を交えて～

(1) 日時・会場

2月21日(水) 17:30～19:30 ・横浜みなとみらいホール 小ホールほか

(2) 講師

新井 鷗子 (東京藝術大学 社会連携センター 特任教授)

菊地 健一 (横浜みなとみらいホール 事業企画チームリーダー)

堀 利文 (横浜みなとみらいホール 事業企画チームリーダー)

(3) 出演者

ホール入門コース、音楽コース参加者のみなさん

(4) 概要及び目的

「インクルージョン」=人種や年齢、性別、障がいの有無などに関わらずすべての人が暮らしやすい社会をつくる、という考え方を芸術文化の中で取り入れていく取り組みが、各地域でも進められている。

この共通プログラムでは、横浜みなとみらいホールでの「盲特別支援学校オルガンワークショップ」、「発達障がい支援ワークショップ IN 横浜『音と光の動物園』」のほか、新井鷗子さんがプロジェクトを主導している「障がいとアーツ」の事例発表をした後、グループに分かれディスカッションを行った。

ディスカッションの中で、各参加者の地域で取り組まれている事例、各地域の課題をふまえてどのようなことに留意していかなければならないのか等、意見交換を行い、各地域で取り組む際のヒントを得ることを目的とした。

(5) 内容

最初に2人1組になり、一方が目隠しをして、一方がホール内の客席～ホワイエ、ホワイエ～客席へご案内することを体験した。初めて体験する方が多かったようで、ご案内の難しさや自分の施設に置き換えた場合の気づきが見られた。その流れから、横浜みなとみらいホールの事業として、視覚障がいの方からオルガンの形を尋ねられて始まった、盲特別支援学校の生徒を対象としたオルガンのワークショップの事例発表、次に発達障がいの子どもの対象としたワークショップの発表を行った。発達障がいの子どもの対象のワークショップでは、元々東京藝術大学で開発・実施されていたプログラムを、受け入れる側としてのどのような対応が必要だったか等について説明した。新井鷗子さんからは、「障がいと芸術」をテーマに、新井さんが取り組んでいる、コンサート、ワークショップ、展覧会、シンポジウムを柱としたプログラムの発表の中で、“障がい者から学ぶ”、“芸術が、障がい者と健常者との共通の言語となりうる”といった、障がいのある方と“共に生きる”という視点の大切さが語られた。

その後、6グループに分かれ、体験や事例発表を受けたディスカッションを行った。まだ積極的にインクルージョン事業に取り組んでいる施設は少ないものの、事業の必要性、コンテンツ探し、ネットワーク形成をしたいと考えている一方、専門知識のある職員が少ないといった、これからの課題共有など活発な意見交換となった。全体を通して、コースや地域を越え、有意義な共通プログラムとなった。



## V 参加者リスト

## Ⅲ ステージラボ

### 高知セッション

# 【参加者名簿】

## 1.ホール入門コース

01.北海道	はしもと りょうへい 橋本 涼平	公益財団法人 札幌市芸術文化財団 コンサートホール事業部 事業課事業係	札幌コンサートホールKitara 開館年 1997 年 大ホール 2,000席/1920㎡ 小ホール 453席/610㎡
	No. 1 〒 064-8649 北海道札幌市中央区中島公園1-5 TEL 011-520-2000 / FAX 011-520-1575		自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
01.北海道	まつもと さくらこ 松本 桜子	公益財団法人札幌市芸術文化財団 市民交流プラザ開設準備室 文化芸術交流センター事業	札幌市民交流プラザ 開館年 2018 年(予定)
	No. 2 〒 060-0001 北海道札幌市中央区北1条西2丁目 札幌時計台ビル10F TEL 011-242-5800 / FAX 011-2424-5656		自主事業 事業予算
08.茨城県	きくち しゅんすけ 菊地 俊亮	小美玉市役所 市民生活部 生活文化課 主事	小美玉市四季文化館(みの〜れ) 開館年 2002 年 大ホール 600席 小ホール 300席 練習室 50.8㎡
	No. 3 〒 319-0132 茨城県小美玉市部室1069 TEL 0299-48-4466 / FAX 0299-48-4467		自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
08.茨城県	せや みなみ 瀬谷 南	公益財団法人日立市民科学文化財団 交流事業課 主事	日立シビックセンター 開館年 1990 年 音楽ホール 825席/780㎡ 多用途ホール 200席/256㎡
	No. 4 〒 317-0073 茨城県日立市幸町1-21-1 TEL 0294-24-7711 / FAX 0294-24-7970		自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
13.東京都	むらまつ ゆか 村松 佑香	公益財団法人としま未来文化財団 劇場開設準備室 企画運営担当	(仮称)豊島区新ホール 開館年 2019 年(予定) (仮称)豊島区新ホール 1,300席
	No. 5 〒 170-0013 東京都豊島区東池袋1-19-1 TEL 03-6773-4919 / FAX 03-6894-0077		自主事業 事業予算
15.新潟県	こいで かよこ 小出 佳代子	新潟市役所 文化政策課 主査	りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 開館年 1998 年 コンサートホール 1884席 劇場 868席 能楽堂 382席
	No. 6 〒 951-8132 新潟県新潟市中央区一番堀通町3番地2(白山公園内) TEL 025-224-5614 / FAX 025-224-5626		自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
20.長野県	ほりうち まさや 堀内 正哉	上田市交流文化芸術センター 総務係 係長	上田市交流文化芸術センター サントミュージーゼ 開館年 2014 年 大ホール 1,530席 小ホール 320席
	No. 7 〒 386-0025 長野県上田市天神3-15-15 TEL 0268-27-2000 / FAX 0268-27-2310		自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
23.愛知県	まきはら ゆか 牧原 由佳	公益財団法人かすがい市民文化財団 施設サービスグループ スタッフ	文化フォーラム春日井(春日井市文芸館)／春日井市民会館 開館年 1966 年 春日井市民会館 1,022席/2,366㎡ 文化フォーラム春日井・視聴覚ホール 198席/274㎡
	No. 8 〒 486-0844 愛知県春日井市鳥居松町5-44 TEL 0568-85-6868 / FAX 0568-82-0213		自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満



# 【参加者名簿】

## 1.ホール入門コース

24.三重県	やまぐち だいすけ 山口 大輔	公益財団法人鈴鹿市文化振興事業団 管理	鈴鹿市文化会館、鈴鹿市民会館
	No. 9	〒 513-0802 三重県鈴鹿市飯野寺町810鈴鹿市文化会館内 TEL 059-384-7000 / FAX 059-384-7755	開館年 1988、1968 年 鈴鹿市文化会館 500席/4,804㎡ 鈴鹿市市民会館 1,278席/5,980㎡ 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
28.兵庫県	はらだ ひろゆき 原田 寛之	公益財団法人いたみ文化・スポーツ財団 伊丹アイフォニックホール(伊丹市立音楽ホール)	伊丹アイフォニックホール(伊丹市立音楽ホール)
	No. 10	〒 664-0895 兵庫県伊丹市宮ノ前1丁目3番30号 伊丹市立文化会館内 TEL 072-780-2110 / FAX 072-780-2120	開館年 1991 年 メインホール 502席/720㎡ 小ホール1 70席/120㎡ 小ホール2 70席/120㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
33.岡山県	おかむら いちろう 岡村 一郎	公益財団法人真庭エスパス文化振興財団 事業推進課 主事	久世エスパセンター
	No. 11	〒 719-3214 岡山県真庭市鍋屋17-1 TEL 0867-42-7000 / FAX 0867-42-7202	開館年 1997 年 エスパホール 501席/147.2㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
34.広島県	たなか じん 田中 仁	公益財団法人廿日市市文化スポーツ振興事業団 はつかいち文化ホール	はつかいち文化ホール さくらびあ
	No. 12	〒 738-8509 広島県廿日市市下平良1丁目11-1 TEL 0829-20-0111 / FAX 0829-32-7160	開館年 1997 年 大ホール 1,095席 小ホール 296席 自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
37.香川県	かめい えり 亀井 恵理	公益財団法人高松市文化芸術財団 事業グループ	サンポートホール高松(高松市文化芸術ホール)
	No. 13	〒 760-0019 香川県高松市サンポート2番1号 TEL 087-825-5010 / FAX 087-825-5040	開館年 2004 年 大ホール 1,500席/3,060㎡ 第1小ホール 312席/1,060㎡ 第2小ホール 610席/308㎡ 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満
40.福岡県	おおくら ゆうみ 大藏 佑美	公益財団法人大野城まどかぴあ 文化芸術振興課 文化芸術振興担当	大野城まどかぴあ
	No. 14	〒 816-0934 福岡県大野城市曙町2丁目3-1 TEL 092-586-4040 / FAX 092-586-4021	開館年 1996 年 大ホール 783席 小ホール 118席 多目的ホール 300席 自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
40.福岡県	かねこ みき 金子 美紀	公益財団法人北九州芸術文化振興財団 宣伝営業課 広報係	北九州芸術劇場
	No. 15	〒 083-0812 福岡県北九州市小倉北区室町1丁目1-11 TEL 093-562-2655 / FAX 093-562-2588	開館年 2003 年 大ホール 1,269席 中劇場 700席 小劇場 216席 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
42.長崎県	たかはし みさこ 高橋 美沙子	一般財団法人大村市文化・スポーツ振興財団 事業部	大村市体育文化センター(シーハットおおむら)
	No. 16	〒 856-0836 長崎県大村市幸町25-33 TEL 0957-20-7207 / FAX 0957-20-7203	開館年 1998 年 さくらホール 500席 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満

【参加者名簿】

1.ホール入門コース

43.熊本県	まえかわ ふみ 前川 史	公益財団法人熊本県立劇場 事業グループ 主事	熊本県立劇場	
			開館年	1982 年
No. 17	〒 862-0971 熊本県熊本市中央区大江2-7-1 TEL 096-363-2235 / FAX 096-371-5246		コンサートホール	1,810席/1,260㎡
			演劇ホール	1,172席/780㎡
			自主事業	d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上

## 【参加者名簿】

## 2.自主事業Ⅰ(音楽)コース

14.神奈川県	こんどう ひろこ 近藤 弘子	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 横浜能楽堂	横浜能楽堂
	No. 1	〒 220-0044 神奈川県横浜市西区紅葉ヶ丘27-2 TEL 045-263-3050 / FAX 045-263-3031	開館年 1996 年 本舞台 486席 第二舞台 60席 自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
14.神奈川県	かわかみ あやか 川上 綾夏	公益財団法人神奈川県芸術文化財団 神奈川県民ホール 事業課 主事	神奈川県民ホール
	No. 2	〒 231-0023 神奈川県横浜市中区山下町3-1 TEL 045-633-3721 / FAX 045-641-3184	開館年 1975 年 大ホール 2,493席/1,337㎡ 小ホール 433席/66㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
14.神奈川県	おおつき さゆみ 大槻 紗弓	特定非営利活動法人チーム杉劇 サブチーフ	横浜市磯子区民文化センター 杉田劇場
	No. 3	〒 235-0033 神奈川県横浜市磯子区杉田1-1-1らびすた新杉田4F TEL 045-771-1212 / FAX 045-770-5656	開館年 2005 年 ホール 310席 - 自主事業 d. 21本以上 事業予算 b. 1円~1,000万円未満
26.京都府	にしむらあきこ 西村 明子	公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団 音楽事業担当	ロームシアター京都
	No. 4	〒 606-8342 京都府京都市左京区岡崎最勝寺町13 TEL 075-771-6051 / FAX 075-746-3366	開館年 2016 年 メインホール 2,005席/約1,800㎡ サウスホール 716席/約730㎡ ノースホール 200席/約300㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
28.兵庫県	つじい おさむ 辻井 修	公益財団法人神戸市民文化振興財団 事業部 演奏課	神戸文化ホール
	No. 5	〒 650-0016 兵庫県神戸市中央区橘通3丁目4-3 TEL 078-361-7241 / FAX 078-361-7182	開館年 1973 年 大ホール 2043席 中ホール 904席 自主事業 d. 21本以上 事業予算 b. 1円~1,000万円未満
34.広島県	たにぐち あや 谷口 彩	公益財団法人広島市文化財団 JMSアステールプラザ アステールプラザ 事務推進員	JMSアステールプラザ
	No. 6	〒 730-0812 広島県広島市中区加古町4-7 TEL 082-244-8000 / FAX 082-246-5808	開館年 1991 年 大ホール 1,204席/304㎡ 中ホール 547席/262㎡ 多目的スタジオ 285席/224㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
39.高知県	いせわき せいか 伊勢脇 生花	公益財団法人高知市文化振興事業団 企画事業課生涯学習担当主幹	
	No. 7	〒 780-8529 高知県高知市九反田2-1 TEL 088-883-5071 / FAX 088-883-5069	開館年 年 自主事業 事業予算
40.福岡県	ふくはら りこ 福原 理子	公益財団法人北九州市芸術文化振興財団 音楽事業課	北九州市立響ホール
	No. 8	〒 805-0062 福岡県北九州市八幡東区平野1-1-1 国際村交流センター内 TEL 093-662-4010 / FAX 093-662-3028	開館年 1993 年 大ホール 720席 リハーサル室 173㎡ 研修室 50㎡ 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満

【参加者名簿】

2.自主事業Ⅰ(音楽)コース

44.大分県	ふかた まほ 深田 真布	公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団 企画普及課	iiichiko総合文化センター	
			開館年	1998 年
No. 9	〒 870-0029 大分県大分市高砂町2番33号iiichiko総合文化センター内 TEL 097-533-4004 / FAX 097-533-4013		iiichikoグランシアタ	
				1966席
			iiichiko音の泉ホール	
				710席
			自主事業	d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上

47.沖縄県	ちねん ゆりか 知念 百合香	沖縄県南城市文化のまちづくり事業実行委員会 嘱託職員	南城市文化センター シュガーホール	
			開館年	1994 年
No. 10	〒 901-1403 沖縄県南城市佐敷字佐敷307番地 TEL 098-947-1100 / FAX 098-947-0099		シュガーホール	
				510席/3,413.85㎡
			自主事業	
			b. 1本~10本	事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満

## 【参加者名簿】

### 3.自主事業Ⅱ(舞台芸術)コース

01.北海道	まつい ともみ 松井 智未	公益財団法人札幌市芸術文化財団 札幌市教育文化会館事業部 事業課 事業係	札幌市教育文化会館 開館年 1977 年 大ホール 1,100席/3,008㎡ 小ホール 360席/990㎡
	No. 1 〒 060-0001 北海道札幌市中央区北1条西13丁目 TEL 011-271-5822 / FAX 011-271-1916		自主事業 c. 11本~20本 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
08.茨城県	ひろやま りょうすけ 廣山 亮佑	小美玉市役所 市民生活部 生活文化課 主事	小美玉市小川文化センター(アピオス) 開館年 1982 年 大ホール 1,200席 小ホール 300席/170㎡
	No. 2 〒 311-3423 茨城県小美玉市小川225 TEL 0299-58-0921 / FAX 0229-58-0923		自主事業 c. 11本~20本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
23.愛知県	ながた なおこ 永田 直子	公益財団法人豊橋文化振興財団 事業制作部	穂の国とよはし芸術劇場PLAT 開館年 2013 年 主ホール 778席/238㎡ アートスペース 266席/140㎡
	No. 3 〒 440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地 TEL 0532-39-8810 / FAX 0532-55-8192		自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
23.愛知県	むらまつ さとみ 村松 里実	公益財団法人愛知県文化振興事業団 企画制作グループ アシスタントスタッフ	愛知県芸術劇場 開館年 1992 年 大ホール 2,500席/舞台2,000㎡ コンサートホール 1,800席/舞台228㎡ 小ホール (可変)約150~330席/360㎡
	No. 4 〒 461-8525 愛知県名古屋市東区東桜1-13-2 愛知芸術文化センター 愛知県芸術劇場 TEL 052-971-5648 / FAX 052-971-5541		自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
23.愛知県	さいとう あい 齋藤 あい	長久手市文化の家 事業係 主事	長久手市文化の家 開館年 1998 年 森のホール 711席/1,300㎡ 風のホール 292席/900㎡ 光のホール 82席/100㎡
	No. 5 〒 480-1166 愛知県長久手市野田農201番地 TEL 0561-61-3411 / FAX 0561-61-2510		自主事業 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満
28.兵庫県	たけした ひとのぶ 竹下 士敦	公益財団法人神戸市民文化振興財団 神戸アートビレッジセンター 演劇・ダンス担当	神戸アートビレッジセンター 開館年 1996 年 KAVCホール 232席/303㎡ KAVCシアター 90席/129㎡
	No. 6 〒 652-0811 神戸市兵庫区新開地5-3-14 TEL 078-512-5500 / FAX 078-512-5356		自主事業 b. 1本~10本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満
28.兵庫県	なかじま たかあき 中島 崇晶	公益財団法人西宮市文化振興財団 事業課・副主査	西宮市民会館アミティホール 開館年 1988 年 西宮市民会館アミティホール 1,180席
	No. 7 〒 662-0918 西宮市六湛寺町10-11 TEL 0798-33-3146 / FAX 0798-33-3455		自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
33.岡山県	たにぐち こうへい 谷口 晃平	岡山県勝田郡勝央町役場 勝央町教育委員会 教育振興部・技師	勝央文化ホール 開館年 2004 年 勝央文化ホール 666席/2,273.86㎡
	No. 8 〒 709-4316 岡山県勝田郡勝央町勝間田200-1 TEL 0868-38-1753 / FAX 0868-38-2580		自主事業 c. 11本~20本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満

## 【参加者名簿】

## 3.自主事業Ⅱ(舞台芸術)コース

34.広島県	まえおか みゆき 前岡 美由紀	株式会社暮らしサポートみよし 舞台照明	三次市民ホール
			開館年 2015 年 三次市民ホール 1,006席
No. 9	〒 728-0021 広島県三次市三次町111番地1 TEL 0824-62-2222 / FAX 0824-62-2230		自主事業 b. 1本~10本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
40.福岡県	かけ たかゆき 鹿毛 貴之	公益財団法人太宰府市文化スポーツ振興財団 事業課事業係事業コーディネーター	プラム・カルコア太宰府(太宰府市中央公民館)
			開館年 1986 年 市民ホール 602席
No. 10	〒 818-0101 福岡県太宰府市観世音寺一丁目3-1 TEL 092-921-2101 / FAX 092-285-2631		自主事業 b. 1本~10本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満
40.福岡県	いちかわ みずき 市川 瑞紀	公益財団法人北九州市芸術文化振興財団 北九州芸術劇場 舞台事業課	北九州芸術劇場
			開館年 2003 年 大ホール 1,269席 中劇場 700席 小劇場 216席
No. 11	〒 803-0812 福岡県北九州市小倉北区室町1丁目1-11 TEL 093-562-2620 / FAX 093-562-2633		自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
40.福岡県	おぐら ちひろ 小倉 千明	久留米シティプラザ 事業制作課	久留米シティプラザ
			開館年 2016 年 ザ・グランドホール 1,514席 久留米座 399席 Cボックス 133席
No. 12	〒 830-0031 福岡県久留米市六ツ門町8-1 TEL 0942-36-3084 / FAX 0942-36-3087		自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
42.長崎県	こもり だいご 小森 大悟	公益財団法人佐世保地域文化事業財団 事業部	アルカスSASEBO
			開館年 2001 年 大ホール 2,000席/3,500㎡ 中ホール 500席/630㎡ イベントホール 350席/410㎡
No. 13	〒 857-0863 長崎県佐世保市三浦町2-3 TEL 0956-42-1111 / FAX 0956-24-0051		自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
45.宮崎県	いわきり よしき 岩切 義樹	公益財団法人門川ふるさと文化財団 企画広報担当主事	門川町総合文化会館
			開館年 1991 年 大ホール 672席
No. 14	〒 889-0616 宮崎県東臼杵郡門川町南町6丁目1 TEL 0982-63-0002 / FAX 0982-63-5048		自主事業 事業予算

## IV ステージラボ

### 横浜セッション

## 【参加者名簿】

## 1.ホール入門コース

01.北海道	かんとう えみ 管藤 恵美	公益財団法人札幌市芸術文化財団 事務職員	札幌コンサートホール Kitara
	No. 1	〒 064-8649 北海道札幌市中央区中島公園1-15 TEL 011-520-2000 / FAX 011-520-1575	開館年 1997 年 大ホール 2,008席/2,242㎡ 小ホール 453席/758㎡ — — 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
03.岩手県	にしづか あさこ 西塚 朝子	釜石まちづくり株式会社 事業部 市民ホール事業課	釜石市民ホール
	No. 2	〒 026-0024 岩手県釜石市大町一丁目1番9号 TEL 0193-22-2266 / FAX 0193-22-3809	開館年 2017 年 釜石市民ホール ホールA 838席 釜石市民ホール ホールB 200席/209㎡ 釜石市民ホール ギャラリー 110㎡ 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
03.岩手県	おおはら あい 大原 愛	宮古市民文化会館 運営ディレクター	宮古市民文化会館
	No. 3	〒 027-0023 岩手県宮古市磯鶏沖2-22 TEL 0193-63-2511 / FAX 0193-64-5445	開館年 1976 年 大ホール 1,012席 中ホール 362席/250㎡ — — 自主事業 b. 1本~10本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
04.宮城県	わたなべ れな 渡邊 怜奈	仙南地域広域行政事務組合 仙南芸術文化センター(えずこホール) 主事	仙南芸術文化センター(えずこホール)
	No. 4	〒 989-1267 宮城県柴田郡大河原町小島1-1 TEL 0224-52-3004 / FAX 0224-51-1130	開館年 1996 年 大ホール 802席 平土間ホール 300席 — — 自主事業 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満
05.秋田県	さとう しん 佐藤 伸	秋田県 観光文化スポーツ部文化振興課副主幹	(仮称)県・市連携文化施設
	No. 5	〒 010-8572 秋田県秋田市山王三丁目1番1号 TEL 018-860-1529 / FAX 018-860-3880	開館年 2022 年(予定) (仮称)高機能型ホール 2,000席/6,500㎡ (仮称)舞台芸術型ホール 800席/3,400㎡ — — 自主事業 — 事業予算 —
13.東京都	ささき ちひろ 佐々木 千尋	公益財団法人としま未来文化財団 みらい文化課プランセクション	—
	No. 6	〒 171-0022 東京都豊島区南池袋2-34-5藤和第2ビル2F TEL 03-3590-7118 / FAX 03-3984-0865	開館年 — 年 — — — — 自主事業 — 事業予算 —
20.長野県	くらしな えみ 倉科 絵美	株式会社地域文化創造 技術部 製作管理	茅野市民館
	No. 7	〒 391-0002 長野県茅野市塚原一丁目1番1号 TEL 0266-82-8222 / FAX 0266-82-8223	開館年 2005 年 マルチホール 780席/約1,250㎡ コンサートホール 300席/320㎡ 美術館 600㎡ 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
21.岐阜県	あんど う りょうた 安藤 涼太	一般財団法人岐阜市公共ホール管理財団 岐阜市文化センター 主事	岐阜市文化センター
	No. 8	〒 500-8842 岐阜県岐阜市金町5丁目7番地2 TEL 058-262-6200 / FAX 058-262-6229	開館年 1984 年 催し広場 (最大)2000席/1,275㎡ 小劇場 — 500席/269㎡ — 展示室 — (最大)150席/144㎡ — 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満



## 【参加者名簿】

## 1.ホール入門コース

22.静岡県	もりたけ あや 森竹 彩	静岡音楽館AOI 嘱託職員	静岡音楽館AOI
	No. 9	〒 420-0851 静岡県静岡市葵区黒金町1番地の9 TEL 054-251-2200 / FAX 054-253-3322	開館年 1995 年 ホール 618席 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
23.愛知県	さかきばら かなこ 榊原 加奈子	特定非営利活動法人武豊文化創造協会 事務局員	ゆめたろうプラザ(武豊町民会館)
	No. 10	〒 470-2555 愛知県知多郡武豊町大門田11番地 TEL 0569-74-1211 / FAX 0569-74-1227	開館年 2004 年 輝きホール 680席/2,644㎡ 響きホールー 230席/1,207㎡ー ー ー 自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
23.愛知県	たきかわ ひろし 滝川 紘史	豊川市 市民部文化振興課・専門員	豊川市文化会館
	No. 11	〒 442-0841 愛知県豊川市代田町1-20-4 TEL 0533-84-8411 / FAX 0533-84-8412	開館年 1978 年 大ホール 1,328席/2,000㎡ 中ホール 452席/590㎡ ー ー 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
27.大阪府	たかだ さき 高田 紗希	公益財団法人堺市文化振興財団 堺市民芸術文化ホール(フェニーチェ堺)準備室	堺市民芸術文化ホール(フェニーチェ堺)※2019年秋開館
	No. 12	〒 590-0946 大阪府堺市堺区熊野町東4丁4-20 林ビル6階 TEL 072-232-0220 / FAX 072-232-0110	開館年 2019 年 大ホール(面積は楽屋を除く) 2,000席/約4,455㎡ 小ホール(面積は楽屋を除く) 312席/約695㎡ 大スタジオー 150席/290㎡ー 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
27.大阪府	いけだしょうへい 池田 翔平	公益財団法人茨木市文化振興財団 文化事業係	茨木市市民総合センター(愛称:クリエイトセンター)
	No. 13	〒 567-0888 大阪府茨木市駅前四丁目6番16号クリエイトセンター1階 TEL 072-625-3055 / FAX 072-625-3036	開館年 1989 年(予定) クリエイトセンター・センターホール 426席/744.77㎡ クリエイトセンター・多目的ホール(電動移動席) 165席/228.98㎡ 茨木市福祉文化会館・文化ホール 345席/409.5㎡ 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満
28.兵庫県	はしもと のりこ 橋本 紀子	公益財団法人西宮市文化振興財団 事業課 嘱託職員	西宮市民会館アミティホール
	No. 14	〒 662-0918 兵庫県西宮市六湛寺町10-11 TEL 0798-33-3146 / FAX 0798-33-3455	開館年 1967 年 西宮市民会館アミティホール 1,200席 西宮市フレンテホール 300席/217.5㎡ なるお文化ホール 684席 自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
31.鳥取県	まきはら るみ 牧原 瑠美	公益財団法人鳥取県文化振興財団 施設利用課 主事	鳥取県立県民文化会館(とりぎん文化会館)
	No. 15	〒 680-0017 鳥取県鳥取市尚徳町101-5 TEL 0857-21-8700 / FAX 0857-21-8705	開館年 1993 年 梨花ホール 2,000席/2,100㎡ 小ホール 500席/480㎡ 0 0 自主事業 b. 1本~10本 事業予算 f. 1億円以上
39.高知県	まつおか まい 松岡 真衣	公益財団法人高知県文化財団 高知県立美術館 企画事業課	高知県立美術館
	No. 16	〒 781-8123 高知県高知市高須353-2 TEL 088-866-8000 / FAX 088-866-8008	開館年 1993 年 高知県立美術館ホール 399席/820㎡ ー ー 自主事業 b. 1本~10本 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満

【参加者名簿】

1.ホール入門コース

40.福岡県	すぎ あい 杉 愛	公益財団法人大野城まどかぴあ 文化芸術振興課・文化芸術振興担当	大野城まどかぴあ	
			開館年	1996 年
No. 17	〒 816-0934 福岡県大野城市曙町二丁目3番1号 TEL 092-586-4040 / FAX 092-586-4021		大ホール	783席
			小ホールー	118席ー
			多目的ホールー	300席ー
			自主事業	d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円～1億円未満
40.福岡県	いなた のりこ 稲田 紀子	公益財団法人北九州市芸術文化振興財団 劇場管理課	北九州芸術劇場	
			開館年	2003 年
No. 18	〒 803-0812 福岡県北九州市小倉北区室町1丁目1-11 TEL 093-562-2655 / FAX 093-562-2588		大ホール	1,269席／8,026㎡
			中劇場	700席／5,496㎡
			小劇場	96～216席／1,285㎡
			自主事業	d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
42.長崎県	たなか たいじゅ 田中 大樹	長崎市 文化振興課	長崎ブリックホール	
			開館年	1998 年
No. 19	〒 852-8104 長崎県長崎市茂里町2-38 長崎ブリックホール4階 TEL 095-842-3782 / FAX 095-842-3784		大ホール	2,002席／1,791㎡
			国際会議場	542席／486㎡
			自主事業	c. 11本～20本 事業予算 c. 1,000万円～3,000万円未満
43.熊本県	ながの ゆうひろ 永野 祐広	公益財団法人熊本県立劇場 総務グループ 主任	熊本県立劇場	
			開館年	1982 年
No. 20	〒 862-0971 熊本県熊本市中央区大江2丁目7番1号 TEL 096-363-2234 / FAX 096-371-5246		コンサートホール	1,810席／1,260㎡
			演劇ホール	1,172席／780㎡
			大会議室ー	380席／390㎡ー
			自主事業	d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
45.宮崎県	しいや あさみ 椎屋 麻美	公益財団法人宮崎県立芸術劇場 企画広報課 企画制作係	メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場)	
			開館年	1993 年
No. 21	〒 880-8557 宮崎県宮崎市船塚3丁目210番地 TEL 0985-28-3208 / FAX 0985-20-6670		コンサートホール(アイザックスターンホール)	1,818席
			演劇ホール	1,112席
			イベントホール	300席
			自主事業	d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
47.沖縄県	かみや しょうご 神谷 彰吾	名護市 地域政策部文化スポーツ振興課文化振興係	名護市民会館	
			開館年	1985 年
No. 22	〒 905-0014 沖縄県名護市港2丁目1番地1号 TEL 0980-53-5427 / FAX 0980-53-5426		大ホール	1,054席
			中ホール	約350席
			自主事業	c. 11本～20本 事業予算 b. 1円～1,000万円未満

## 【参加者名簿】

### 2.自主事業(音楽)コース

01.北海道	よしたけ ゆうじ 吉武 裕二	NPO法人はまなすアート&ミュージック・プロダクション 企画・営業グループ 制作担当	まなみーる岩見沢市民会館・文化センター 開館年 2003 年 大ホール 1,165席/1721.25㎡ 中ホール 514席/1,076㎡ 音楽室 150席/227㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
	No. 1	〒 068-0029 北海道岩見沢市9条西4丁目1-1 TEL 0126-22-4235 / FAX 011-351-2556	
01.北海道	おおはし あきら 大橋 諒	公益財団法人札幌市芸術文化財団 芸術の森事業部事業課	札幌芸術の森 開館年 1986 年 札幌芸術の森野外ステージ 5,000席/1,766㎡ 札幌芸術の森アートホールアリーナ 600席/645㎡ 札幌芸術の森アートホール大練習場 300席/488㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
	No. 2	〒 005-0864 北海道札幌市南区芸術の森2丁目75 TEL 011-592-4125 / FAX 011-592-4120	
08.茨城県	おおとも ゆうき 大友 悠輝	公益財団法人日立市民科学文化財団 ホール事業課 主事	日立シビックセンター 開館年 1990 年 音楽ホール 825席/780㎡ 多用途ホール 200席/256㎡ — — 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
	No. 3	〒 317-0073 茨城県日立市幸町1-21-1 TEL 0294-24-7755 / FAX 0294-24-7979	
13.東京都	つるおか みなみ 鶴岡 南美	公益財団法人目黒区芸術文化振興財団 事業係	めぐろパーシモンホール 開館年 2002 年 大ホール 1,200席/1,055㎡ 小ホール 200席/190㎡ — — 自主事業 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満
	No. 4	〒 152-0023 東京都目黒区八雲1-1-1 TEL 03-5701-2913 / FAX 03-5701-2968	
13.東京都	たなべ ひろこ 田邊 紘子	公益財団法人としま未来文化財団 みらい文化課プランセクション	— 開館年 — 年 — — — — 自主事業 — 事業予算 —
	No. 5	〒 171-0022 東京都豊島区南池袋2-34-5藤和第2ビル2F TEL 03-3590-7118 / FAX 03-3984-0865	
14.神奈川県	みずしま ようこ 水島 洋子	公益財団法人平塚市まちづくり財団 文化事業課	— 開館年 — 年 — — — — 自主事業 — 事業予算 —
	No. 6	〒 254-0045 神奈川県平塚市見附町31-10 TEL 0463-32-2237 / FAX 0463-32-2240	
14.神奈川県	とおやま かおり 遠山 香織	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 横浜能楽堂	横浜能楽堂 開館年 1996 年 本舞台 486席/83.1㎡ 第二舞台 60席/70.3㎡ — — 自主事業 b. 1本~10本 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
	No. 7	〒 220-0044 神奈川県横浜市西区紅葉ヶ丘27-2 TEL 045-263-3050 / FAX 045-263-3031	
20.長野県	いなみ さほ 伊波 早穂	一般財団法人松本市芸術文化振興財団 松本市音楽文化ホール 企画・営業	松本市音楽文化ホール(ザ・ハーモニーホール) 開館年 1985 年 メインホール 693席/720.50㎡ 小ホール 180席/342.50㎡ — — 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満
	No. 8	〒 390-0851 長野県松本市島内4351 TEL 0263-47-2004 / FAX 0263-47-2383	

## 【参加者名簿】

### 2.自主事業(音楽)コース

22.静岡県	すずき さきえ 鈴木 さきえ	沼津市民文化センター 事業係	沼津市民文化センター 開館年 1982 年 大ホール 1,516席/2,800㎡ 小ホール 526席/948㎡ — — 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
	No. 9	〒 410-0832 静岡県沼津市御幸町15番1号 TEL 055-932-6111 / FAX 055-933-2049	
23.愛知県	いとう さえ 伊藤 早恵	公益財団法人かすがい市民文化財団 事業推進グループスタッフ	文化フォーラム春日井(春日井市文芸館)/春日井市民会館 開館年 1966 年 春日井市民会館 1,022席/2,366㎡ 文化フォーラム春日井・視聴覚ホール 198席/274㎡ — — 自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
	No. 10	〒 486-0844 愛知県春日井市鳥居松町5-44 TEL 0568-85-6868 / FAX 0568-82-0213	
23.愛知県	おかだ ゆりか 岡田 百合香	長久手市文化の家 主事	長久手市文化の家 開館年 1998 年 森のホール 819席/1,300㎡ 風のホール 300席/900㎡ 光のホール 82席/100㎡ 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満
	No. 11	〒 480-1166 愛知県長久手市野田農201 TEL 0561-61-3411 / FAX 0561-61-2510	
23.愛知県	いしだ あきこ 石田 晶子	公益財団法人豊橋文化振興財団/穂の国とよはし芸術劇場PLAT 事業制作部	穂の国とよはし芸術劇場PLAT 開館年 2013 年 主ホール 778席/697.83㎡ アトスペース 266席/85.5㎡ — — 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
	No. 12	〒 440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地 TEL 0532-39-8810 / FAX 0532-55-8192	
24.三重県	こんどう ほなみ 近藤 穂波	公益財団法人三重県文化振興事業団 三重県文化会館 事業課 音楽事業係	三重県総合文化センター 開館年 1994 年 三重県文化会館 大ホール 1,903席 三重県文化会館 中ホール 968席 三重県文化会館 小ホール 285席 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
	No. 13	〒 514-0061 三重県津市一身田上津部田1234 TEL 059-233-1112 / FAX 059-233-1106	
28.兵庫県	やまだ まみ 山田 満美	公益財団法人姫路市文化国際交流財団 振興課 主事	姫路市文化センター 開館年 1972 年 大ホール 1,657席/4,861㎡ 小ホール 493席/955㎡ — — 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
	No. 14	〒 670-8544 兵庫県姫路市西延末426番地1 TEL 079-298-8014 / FAX 079-293-7300	
28.兵庫県	うえだ ゆみこ 上田 由美子	公益財団法人神戸市民文化振興財団 神戸文化ホール 事業部 文化ホール事業課	神戸文化ホール 開館年 1973 年 大ホール 2,043席 中ホール 904席 — — 自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
	No. 15	〒 650-0017 兵庫県神戸市中央区楠町4-2-2 神戸文化ホール内 TEL 078-351-3535 / FAX 078-351-3121	
28.兵庫県	だいまる あつこ 大丸 敦子	兵庫県立芸術文化センター 事業部 制作担当課	兵庫県立芸術文化センター 開館年 2005 年 KOBELCO大ホール 2,001席/2,070㎡ 阪急中ホール 800席/711㎡ 神戸女学院小ホール 417席/64㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
	No. 16	〒 663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22 TEL 0798-68-0206 / FAX 0798-68-0212	

【参加者名簿】

2.自主事業(音楽)コース

31.鳥取県	みなみ かずし 南 和志	公益財団法人鳥取県文化振興財団 企画制作部 西部事務所 主事	とりぎん文化会館(正式名称:鳥取県立県民文化会館)	
			開館年	1993 年
No. 17	〒 683-8510 鳥取県米子市西福原2-1-10 TEL 0859-38-5127 / FAX 0859-38-5128		梨花ホール	2,000席/2,100㎡
			小ホール	500席/480㎡
			リハーサル室	210㎡
			自主事業	c. 11本~20本 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満

34.広島県	なかはら りょう 中原 竜	公益財団法人広島市文化財団 事業推進員	JMSアステールプラザ	
			開館年	1991 年
No. 18	〒 730-0812 広島県広島市中区加古町4-17 TEL 082-244-8000 / FAX 082-246-5808		大ホール	1,204席/320㎡
			中ホール	613席/270㎡
			多目的スタジオ	224席/285㎡
			自主事業	d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満

40.福岡県	どばし かなこ 土橋 佳那子	公益財団法人久留米文化振興会 企画営業課企画広報係	石橋文化センター	
			開館年	1956 年
No. 19	〒 839-0862 福岡県久留米市野中町1015 TEL 0942-33-2271 / FAX 0942-39-7837		石橋文化ホール	1,077席/2,026.5㎡
			文化センター共同ホール	467席/1,472.97㎡
			石橋文化会館小ホール	200席/324㎡
			自主事業	d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満

43.熊本県	くろき まさみ 黒木 正美	公益財団法人熊本県立劇場 事業グループ	熊本県立劇場	
			開館年	1982 年
No. 20	〒 862-0971 熊本県熊本市中央区大江2-7-1 TEL 096-363-2235 / FAX 096-371-5246		コンサートホール	1,810席/1,260㎡
			演劇	1,172席/780㎡
			—	—
			自主事業	d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上

# 平成29年度ステージラボ事業報告書

～ 公共ホール等企画運営ワークショップ～

編集・発行 一般財団法人地域創造  
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11  
オリックス赤坂2丁目ビル9階  
電話 03-5573-4050  
ファクシ 03-5573-4060

平成30年6月発行